Aug. 1892.
no. 325-2.

女學雜誌

第三百二拾五號

乙の卷

明治二十五年
八月二十日發兌

注意

社説 情交の辨は近來戀愛を言ふ者に二種の極僻あることを辨じ猛戒に供ふ 花を散らすダホミーの女軍は王の近衛兵たる女軍の組織及び勇猛を寫せり女界の一奇觀也 家庭の養鷄は此途に多年經驗したる人の説にて專ばら實際上の案内となるべし 加賀の千代ならびに矢部まき子の傳は重も其の俳句歌道の秀所を論ず 批評には桂園叢書、文學一斑明治政史、女子習字帖等 論説は大坂梅華女學の西洋女教師某が日本の基督教主義女學校に於る女子教育を辨じたる一篇あり彼人々が意想の一斑を推知するに足らん 我宿の花及び支那婦人の婚姻は東西の家庭を比較對表して一種奇異の感を惹く 時事に、海水浴温泉場の仕切り、洪水、女子參政權等の數項あり

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 325. AUGUST 20th. 1892.

EDITORIAL :- Love and its Expression.

CHILDRENS COLUMN : "The Flower of the Family" (No VI.)

MISCELLANIES : - Marriage in Nangkin ; Amazon in Dahomy.

TALK ABOUT BOOKS :- "Koto Joshi Shuji deo"; "Meiji Seishi"; "Keiyen Sosyo"; "Bungaku Ippan";

HOUSEHOLD : Poultry in a Small Scale

BIOGRAPHY : Kaga-no-Chiyo ; Yabe Maki.

LEADIENG ARTICLES :--The Education of Japanese Girls in Christian Schools.

TOPICS OF THE DAY. (A. D.)

本號(第三百廿五號)目次

○社說　情交の辨(上)

○兒監　我宿の花(若松しづ子)

○雜錄　支那婦人の婚姻○祝歌一首(雲峯子)○花を散らすダホミーの女軍

○批評　高等小學女子習字帖○明治政史○桂園叢書○文學一斑

○家政　家庭の養鷄

○史傳　加賀千代女○矢部まき子

○論說

○時事　海水浴○溫泉場の仕切り○洪水○女子參政權

前週(第三百廿五號)白表

●社說　時事小言二則

●小說　夏草(第二回)無名氏譯

●雜錄　別離(しのぶ)○田舍歎(道德界の零落、矯風上の音樂)方寸子○言責及吾鏡(口頭の言と良心の責、我を寫す二大鏡)山月子○洋行の箴一則○天地管見(博愛と熱愛)○禪窟雜感(坐禪修行の初感。閑境叫破の一聲。百魔交々身に迫る。文天祥夢に入る。牧師鍛錬足らず。禪僧(夕話)天知子○三日幻境(透谷子)。

●史傳　封建君臣の好標本、白河樂翁公

●批評　明治政史○上代○歷史家としての新井白石○我國に宣教師を送るの否を論ず○武人の虛喝何か有ん○外山正一君の女子教育○二つ三つ○尼子義久

●片々　各地の青年に告ぐ○各地青年の運動報告

前々週(第三百廿四號)赤表

●社說　家庭は國家なり

●史傳　故安岡いく子の傳(櫻井ちか子)

●雜錄　フルベッキ氏三十三年日本傳道追懷○避暑の教

●家政　母としてのグラッドストン夫人

●兒監　我宿の花(若松しづ子)

●批評　家族主義女子教育

●寄書　子供と愛國心○コレラ病に付ての注意○文法上女子の解釋

○談緒寸絲

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第三百廿五號　明治二十五年八月二十日發兌

社説

情交の辨（甲）

萬づの事、極端に走るべからず。中を取りて、程の宜しきを得たるこそ床しけれ。夏の極めて熱つきは、冬の太甚はだしく寒きと同に、人々の苦痛比へん方なし。熱くもあらず冷たくもあらぬ春秋は、人の棲ふに此上なく樂しきもの也。世間の人事大凡そ之に似たるもの尠からず。

近頃ろ、戀愛と云ふ文字公けに行はれ、士君子肅坐の間だ、又は親子ともに打語らふ折りにも、些との會釋なく發言せらるゝの景况となりぬ。之を曩昔の習はせに較ぶれば、驚ろくべきの變化なり。一方より惟んみれば、是れ大ひに祝すべきことにして、他方より密かに考ふる時は、幾多掛念の種を含めりとは知らる。

眞率を英語にて、チープン、ハートと云ふ。即はち心を開きたるの姿にとれり、夫れ胸襟を開けて秘す所ろなきは、文明の世、君子人が安んじて爲す所ろの象なりとす。彼の面を飾り、襟を引〆め、蛇の睨むが如く覗つて互ひに相秘さんとするは、戰國の時代、臆病者が爲すところなり。今日の御代に住まひ、博愛の心を以て人を信じ人に親しまんことを欲するの徒は須からく、眞率なるべし、蛇の隱邪姦曲なる躰裁に似ることある可らず。

左れば、人は成るべく隱さぬを可とす。隱すは止むことを得ざるものにて、好んで習ふべき事にあらず。況してや、之を現はすは、吾情の自然にして、又之を告白するは、人を喜こばすの種ありと知られたる人情を交す時などに至りては、抑も何の必要ありてか之を秘す可き。もとより一種の耻かしみなるのありて幾分か之を現はすことを制す、此は花に香りあるが如く、瓣を悉とく開かざることによりて之に保たるものなり。此氣味のゆへに打明けざるは善し、之も亦た人情の自然なれど、抑そも如此き自づからなる制裁のあるにもあらず、さりとて人の道に於て左して潔よきものあるにもあらずして、たゞ〳〵世上の濁習に染み、凡客に笑はるゝことの苦しさに、嚴然神聖なる人情を曲げて敢て忍刻冷薄の姿を裝ふは何等の恨

みぞ。其膽の小くして其阿ねるとの巧みなる寧ろ憫れむべきものなりとす。我國從來多少此の弊なきにあらず。

兒を愛するは親の誠にあらずや、何を恥ぢてか此誠を秘さんとする。妻を愛し、良人を慕ふは一生同伴の人の誠にはあらずや、何を恥ぢてか此誠を秘さんとする。强ひて冷淡をかざり、石の如く心を動かさゞるを善き事と思ひ、旅行に家を懐はざれば豪傑の如く言ひはやし、臨終に妻子を顧みざれば大英雄の如く評判するものあり。さて〱情けなき小人物ある哉。

人情の誠を秘すは、天地の爲めに秘すか、又は人の爲に秘すか。短かき世に於て數の知れたる人間の中に住まひ、此の人間の舌と歯とを通じて出で來る風の爲に動かされ、吾本領を秘して他人に遠慮するは、別段美しきとにもあらざる可し。

吾黨は、世の人が今一きは偉大とならんとを欲す。

然るに、中心自から信ぜず、胸に些との豪氣備はらざる青年輩は、むかし片輪もの丶怪人物が亂暴時代の豪傑と稱えられ今日に至るまで誤まりて其空名を傳へたる偏屈人物の行爲に傚ひ、情に忍び誠に淡きをもて英雄たる所以と誤解し、切りに英雄らしくあらんとを欲して、女性を輕んじ、子供を蔑がしろにし、家を忘れ、情交を疎んずるものあり、憫れむ可き見識と云ふべし。

此故に、吾黨は、同胞の人々が今一段自からの、姿に反り、人情の誠を遠慮なく露はして、此の冷たき世を温たかにせんとを祈る。率先して俗うけの外に出で、凡客が恥かしがる所ろを敢て斷行するも亦た一種の改革なり。福澤先生が、其ホームの交情を世評に示し、親子夫妻の愛念を遠慮なく書現はさるゝは感服の外なし。尋常人の爲し能はざる所也。

以上一面の理由を辨じ、斷乎として之を主張せんとするは、女學雜誌が多年任ずる所ろなりとす。然れども、之と共に亦他の一面を主張するとを忘る可らず。愛を白露するとを尤とも强よく勸告すると共に、亦た愛を飾るとなかれと戒しむ。ポーロ曰く愛は僞はるとなかれと、僞はりて愛するとを示すは女郎なり。君子辻君の醜態に倣ふ可らず。吾黨が主張する所ろの本旨は、人情の誠を保護せんとするにあり。愛を露はし情交を自由にせんとを欲するは、人の誠なり、故に之を主張す。然れども、この誠を飾らず、たとひ幾分か減じて人に示すとも之を殖やして人に廣告せず、一種の恥かしみと、一

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

種の慎しみと、更に一種の氣節とによりて多少情に制裁を加へ、淡然愛を藏して裏面に深き心を滿さんとするも亦た人の誠なり、故に之を主張す。要とする所ろは誠を保護するにあり。表面裏面の二つの辨解相ひ矛盾するに似て實は一つ。所云る物の中を得て極端に流れざるの心得は、實に此邊より生じ來る。

武士は食はねど高然として楊枝を含む。此の態、幾多の負惜しみを存して面白からぬ節も亦なきにあらねど、玆に武士の美なる氣節を懷く。この美なる所は保存せざる可らず。

凡そ情の深きものは、言葉の少なきもの也。深き瀨に空波の立たざるが如く、眞實實意の人は至つて物靜かなるもの也。てふ〳〵しく言葉を重ねて、秋の木の葉の風に散る如くまき散らすものは、些との實意もなし。「君を愛す」など打あけて言ふ人に眞實の熱愛あるは尠なし。彼の情深き實意ある眞面目の人を見よ。左して愛相を呈せず、さして世辭を言はず、人に對して持なし風をせず、情熱するとき默して述べず、裏面に情をこめ、千々に工夫して盡力すれども相ひ會する時は淡然として關はらざるものゝ如し。如此き人は、多く言はざれども、其寸言は万語に優り人の心を刺す。强いて客を遇せざれども、人何となく引つけらるゝ心地して集まり來る。之を誠ある人の德となす。我國にては之を高等にして奧床しく人柄にして眞實なる人と稱し、武士及び武士の母、妻、娘を以て然りとなす。西洋に於ける眞の紳士、貴女なる意義亦た之に同じ。

近頃は、交際の西洋風と云ふときは、最と騷々しき者とのみ思ふ人多し。左れど、西洋文明國の眞の紳士及び貴女は、决して騷がしき浮薄の人にあらず。或る姿に於て、我國の武士と理想を一つにす、たゞ新開國の亞米利加風と、輕薄なる西洋の都風とのみを輸たして、是れ西洋の最上の交際風なりと誤まりてより、西洋風と稱して極めて醜くき情交を爲すものあり。もし一と度び彼地の奧床しき小說を繙とき、又は眞の高等なる人物に交わりたる族は直ちに此誤を發見せん。

此故に强いて情を矯むると、飾りて情を現はすと、共に不可なり。俗論に懼れて情を現はさざると、西洋風を誤まり殺風景に情をむき出しにすると、又共に不可也。

兒藍

我が宿の花

第六回 (下)

若松しづ子

アーサの病氣は一家の締を悉く亂したる故、其恢復の後は赤子の世話と、數週間堆積した縫物などが隙間なく、家中の人を忙敷致し升た。リベカは家の爲にと稱へて、自ら退校致し升たが、先に立つて、指揮するはいつもルーセで、万事に心を用ゐて立働らき升た。然るに、兼ての學問志願が此時に至つて、一層深くなつた理由が有升た。アーサは此度の病氣でいよ／＼薄弱な身となり升て、ルーセの考には必定農業に從事は出來ぬと諦つて見れば是非高等教育を受けさせ度なり升た。それ故に、學資金をつくる爲には、先づ自ら教師となつて一ッ働かうと思ふにつけ、朝は一入早起もし、夜は久敷燈火の下に勉學を始め升たが、時間の不充分なる苦心の結果は思ふ程でなく、却て、身躰に故障を起す始末に至り升た。

ある朝、母が、

ルーセさん、昨夜一と晩咳をしてお出のは、おまへさんじやないかへ？

あの、少し咳を致し升た。

と、ルーセがいへば、アーサが側から、

此人は毎晩、咳をなさるんです。

父に母が心痛の眼ざしを交し升た。父の眼のもふしたとは、「丁度此娘の年に死んだ妹も、かふいふ咳で有つた」。母の眼は「私も其事を思ふて」と答へ升たが、現わには、何の言葉もなく、一座か靜まり反つて居り升たが、軈てルーセが、

あの、ホワイト先生のお禮は、モウあさい升たか？

いや、まだ書付が來ない。

と父の答へを聞いて、ルーセはまた、

明日參りませうよ、よく元日におよこしなさい升から。

ルーセは、父に醫師の禮の話をして、物言へる父の顏に、それと知た醫師の招待を止やうとし升たが、ルーセの策は外れ、翌日醫師が來て、ルーセは手もなく、診察を受け升た。醫師は藥を調合して、用法を口授し、さて、グラント夫人に向ひ、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

それで、これはまたあなたのお藥です。

なんです、わたくしは病氣では御坐いませんに、

と母は答へて、手渡しにされた紙切を見れば、五十圓の爲替でした。それで、笑ひながら、返へさうとて、さし出し、

またあなた、御冗談がまだ止みませんネ。

ナニ、冗談處では有ません、實はかふいふ譯です、アーサさんに怪我をさせた若者の中の一人が、先頃手紙をよこし升てネ、自分が漸く家督相續をする年齡になつたから、損害の額をと尋ねて來升たから、先づざつと五十圓と申てやり升たら、早速送り越されて、餘り輕少だがさし上げて呉れる樣にと申て參つた處です。

どふもそれを收めて置く譯には參りませんネ、

とグラント夫人がいへば、

勿論收めてお置なさるさ、さもなければどうなさる思召です。

その、何さん――なんといふお名前でしたか――その方にお返へし被下ましな。

何さんだとも、名はまだ申し上げんでした。それに宿處も御存じ有升まい。

それは調らべ樣も有ませう。

調らべはつき升まい、またついた處で止めになさるが宜しい、益のないとです、

と言ひつゝ立上つて帽子をつかみ、

モウ外國へ行つて仕舞い升た。それにあの人にとつて、五十圓は何でも有ません。こゝのお家がかふ氣位の高いお人計りでなければ百圓と申て遣る筈でしたが、それにしてもあの一件で御一族を苦しめた埋合せには中々なりません。兎に角、此金子一條に付ては、一切愚老の關係御免蒙り度のです。といひつゝ急ぎ足に立去らんとして再たび戻り、ルーセの頭に手を置き、自身の方に顏を向けさせ、此お人はどこかへ是非轉地療養にお遣なさらねといけないです。此咳は今の處大したとも有ません、また／＼六ケ敷のを直した經驗も有ますが、今まで通り、無理をしつゝけて行かれたら、大事にならんと請合は出來ません。それでネ、ルーセ孃、大人のお歸りが有つたら、今年は愚老の方のお拂は先づ宜しい、書附はよこしません、金はまだ入らぬとい

つて下さい。

とい ひ置いて、今度は一散に走り去り升た。

お金が入らない處か、

とグラント夫人がいつて、今は感が迫つて、涙ながらに、其細君が多年着續升たシヤウルのモウ一週は持ちさうのないとと思ひ起し升た、ルーセも、同じ思ひに切なく、

マア、實に貧乏も恐ろしいものですネ、自分はどの樣にも辛抱は出來升が、ホワイト先生のお禮をせぬとになると、

母は涙を拭ひつゝ、

あの樣な人は善悪の賞罰に明らかな天帝から、充分な報をおうけなさるに違ひない、キット何かお御報美を頂戴なさるだらう。

肝を消して、言葉を出すとも出來ず、始終を坐つて聞いたトムは、

ユー、五十四…大變だ、うちでは王樣程お金持になつてネ。

母はホヽ笑の中に歎息を漏らし升た。其心の中に、ルーセを轉地させるといつて、どこへ遣られようと思ひつゝ、

おまへ、これでどこぞへ行かれ升よ。

ルーセは、今はうつろひ果た母の頬にキスをしつゝ、

おつかさん、それよりアーサを大學へ遣る代の足になさい升よ、そつくり其まゝ大事にして置いて遣ろうでは有ませんか、ネイ、おつかさん？

僕はモウ大學なんかへは行かないんです。

母はアーサの決心現れた言葉を聞て、心配さうに打見遣り。

そのことばかりは、おまへが思ひ直す樣な好とが有と宜敷がネ。

兎に角ルーセさんはどこかへ行かないではなり升まい、あんなに瘠て居るんですもの。

ルーセは笑ひながら、

アーサさんも同じとですよ、それに考へて御覽なさいよ、馬鹿ら敷話しでせう、どこか知らぬ處へあたし一人遣つておしまひなさるなんて、そんなとでは百年たつても、丈夫になるてはありませんわ。

かう話し合ふて居る中に母は默して考へて居り升て、其日は終日考て居る樣子でした。迚も此世に有る間は、我娘の骨休めをする處が有る樣には思はれず、世を去つた後に人の安息

する處が有るとならば、そこにこそと思ひ升た。

おつかさん、御心配なさい升な、キット法方がつき升から。

とは、ルーセが母の耳に囁ひた言葉でした。

雜錄

支那婦人の婚姻

南京の舊都に支那の婦人を訪れてその婚姻の有樣を聞くときは先づわれらをして三嘆の外なからしむ。彼女は幼少の頃より敎へらるゝことありて天もし笑を含んで彼女に夫を持つの幸運を與へなば心を温順に持ちて女の道を守るべしといふ。殊にその吉日を選ぶがごときことは尋常の苦勞と見えざれど婚姻といふものゝ運の開けとは支那婦人に言難かるべし。凡て夫となり妻とならんとするものゝ間には互に相選ぶといふことなく、たゞ兩親の望みによりて偕老の緣を結ぶまで也。されば今日は諸神の冥利を得ていよ〳〵輿入の式あるべしといふ其日には、彼女は終日床上にて靜かに考ふるを慣例とし、別に是といふ程の食を與へられず粥幾椀を程として僅にその食欲をしのぐといふ。やがてその日の晝の刻ともなれば花聟の方より一家の者へ其々の挨拶に來り殊に花嫁の母親に向ひては格別の敬禮をつくすを例としたり。通常婚姻の式を擧ぐるには夜の十二時頃を選べるより、夕暮ともなれば既に輿入の用意をなして提灯をうるはしく飾り付けたる輿には花嫁を容るゝ斗りにて家の門に待ち、音樂師は樂器を奏して目出度〳〵と歌ふなかに、相應なる資産ありて夫子を持てる婦人二人おの〳〵その婚姻の折に用ゐたる緋の衣裳にて嫁の相役となり萬事を周旋す。

いよ〳〵花嫁の輿に乘りて家を出でんとする前、二人の相役のうちいづれか門のところへ來り、只今嫁御々入湯と一聲高らかに呼ぶや、音樂師一時に奏樂を始め、更に只今御裝束と呼べば、奏樂の聲さらに起り、御結髮もすみぬと呼べば、他の奏樂の聲さらに起りて日暮の空に響くといふ。花嫁の新しき衣裳を着けたる後は土塵を蹈むことを失禮なりとし、白米をまきたるものゝ上に花嫁を乘せて、これより直に輿に移すを常とす。彼女のいよ〳〵輿に入るや、外より堅と戸を鎖し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て、これより未來の「ホーム」に向ひしづ〳〵とすゝみ行くなり。凡そ途の中頃迄きたりしと覺ゆる頃、彼女に隨伴せる婢女ありて聲高らかに、御身の家はすでに近し早く泣音を留め玉めやといふよしなるが、これは先方の家族に涙の痕を見せて不吉の兆を招くまじとなり。

すでに先方の家に着すれば出迎への人々よろこばしげに彼方此方に群集して一様に丁寧なる挨拶をなし、輿をおろして音樂の聲もしづまるや、吉例のありといふ其刻まで彼女は一室に籠りて默考靜座するを例とせり。この部屋籠りといふは婚姻の式中にも甚たやかましきものにて、この式を欠くときは花嫁の爲に大なる恥辱となるよしなり。

定めの時ともなれば部屋の戸を開きて二人の婦人入り來り尚ほ花嫁のために周旋の勞を取り、白米をまきたる廊下づたひに先づ拜殿といふへ趣くなり。拜殿といふは新夫婦にて天地の諸神を拜するところにて、こゝへ來るに通例紺の衣の片端を花聟にとらせ、他の片端は花嫁にとらせて、かくて拜殿に入り參拜の式を終り、これより花嫁は花聟に導れて婚姻の式場へ來るなり。その式といふは彼等ともに首を垂れて床上に座り、目出度かの酒盃を取替して、これにて婚姻の式を終るといふ。この式の終るを待ちて後、新夫婦はじめて相見るの例なるが、このとき諸方の戸を開け放ち、花聟は別室に退きて花嫁のみ其處にとゞまり一時に入り來る隣人又は親戚へ向ひて其々一禮するなり。この時は目出度〳〵の聲にて雜閙を極むるも、花嫁のみは首を垂れて靜座し、いかなる笑ふべきことを聞くとも堪へ忍ぶの例なりといふ。舅にむかひて諸方より祝ひ來るはこの時なり。

未明の頃ともなれば花嫁の母親より祝ひ物を齎して、新家の一同打揃ひこれを分つ。婚姻の式ありしその翌日は花嫁決して人に語らず、それより三日の間は夫の面前にて物言ふことなく、この間諸方より花嫁を見舞ふもの引きもきらざる也。三日目にいたりて新婦は家族の面々に紹介せられ、四日目にいたりて朝早く姑の部屋に入りその機嫌を伺ひ、夜もまた朝のごとくして、これを花嫁の務めといひ、新婦一生の苦勞なりといふ。もしこの務めを欠くときは近隣の人々よりさま〴〵に非難され一家不和の基を起すよしなり。

かくして初一ヶ月の程は新婦を祝ひ來るもの日に絕へず。そ

の習慣によるときは其月の終り迄一歩も家を出ること勿れとありて、舊例を固く守る家にては朝夕姑に向ひ挨拶するの外新婦の物言ふを許さゞることさへあり。

この月の終りには新婦の母親より時候に順ひて贈物を遣し、このころよりして新婦はその家の務めをなすといふ。妾は何をなすべきやと始めて姑に問ふるとき、姑のこれに答ふは一定の習慣ありて、我宿のために御身の夫の股引を作れといひこれを新婦が手初めの業となせり。

もしこのあはれむべき新婦と姑との間柄をつまびらかにせば支那婦人が生涯といふものを知り得べきなり。姑がその新婦に對してさまぐ\に我意を張り、花嫁たるものは姑の許しを得ずして外出だになし能はざる程なれば、新婦の姑の爲に呵責せられて、そのあはれむべき命を失ふためしも少なしとせず。

新家における花嫁のひとつの望みといふは、家の後嗣を生むといふことにあり。もし後嗣を設けたるときは新家の榮へといひていたく家族の人々よりおもんぜられ、こゝに新婦が位を身につけたるなれば、前には敵の如くに悪まれし姑よりもゆるやかなる待遇を得るに至るなり。しかれども子といふものを一人だに設けず又は病弱にして多く枕に伏す花嫁のごときは、いたく姑の爲に責められて、見るに忍びざる程の虐待を受け、新婦をして自殺せしむる程の折檻を見ること屢々なりといふ。かゝる折には花嫁の里方よりなかく\の苦條を蒙るのみか、姑はこれが爲に財を費てし新婦の亡靈を祭り、後日その家にたゝりなきよう加持祈禱に依頼して僅に罪の迷ひを遠くといへり。

姑の呵責につれて、更に新婦の忍び艱きものはるの良人の我儘なるべし。良人はいかに性質よろしからずと雖も、新婦たるものは一言だにその意に逆ふことを許されず、彼も是も只々低頭して忍び難きの忍びを忍ぶものは唯一の貞操たる婦人といはれ、おのれの良心さへなきものにして專ら良人の意に從ふは、支那の婦人にとりて是上もなき苦みといふべきにあらずや。

彼女が慘憺たる生涯を追ふときは良人の放逸なると閨房蓄妾の悲みとの如き一々擧げ來りてなかく\にわれらの胸をいたむることのみ多からん。然れどもかのあはれむべき花嫁は、

後におはるべき姑となりて、反てまた後の花嫁を悲ましむることと滔々として南京の「ホーム」は皆かくの如しといふ。

祝歌一首、親しきあるともの結婚式にものしてよめる（押韻）

雲峯子

一　雲井かゞやく　ほしづくよ
かみのみ國や　かしこかも。
庭にゝほへる　はなうばら、
自然のいろの　うつしくさ。
そら鳴わたる　ほとゝぎす、
うたふしらべぞ　いと妙なる。
さてもたのしき　この夜かな。
よろこびしげき　わが世かな。
いざやうたへよ　もろともに、
かぎりも知れぬ　神のみめぐみ。

二　神のみまへに　ちぎりても、
ゑにしを結ぶ　わがともよ。
くもゐの月も　うちゑみつ、
君がさちをば　いのるらむ。
庭のうばらも　たのしげに、
君がためにと　にほふなり。
そらなきわたる　ほとゝぎす、
君ことほぎて　うたふらむ。
いざやいはへよ　もろともに、
君がさき榮ふ　今日のたのしみ。

三　君がわたらむ　世のたびぢ、
任せてもゆけ　おほかみに。
きみがさちをば　かず／＼の、
なやめるひとに　わかちてよ。
つきのごとくに　かゞやきて、
てるこそ此世の　ひかりなれ。
たかき燈臺に　かゞやかむ、
ともし火のごと　てらななむ。
いざやうたへよ　もろともに、
世にありがたき　神のみひかり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

四
よろづのものは　もろともに、
かみのさかゑを　ほむるなり。
　あやうき道にも　よみぢにも、
　聖きひかりの　絶ゆべきぞ。
いざいさみゆけ　よのたびぢ、
かみのみくにを　めじるしに。
　愛はかはらじ　かぎりなく、
　君がちぎりも　かぎりなく。
いざことほげよ　もろともに、
神のむすべる　君のちぎり。

花を散らすダホミーの女軍

N. N.

孫子の女軍は戯れなるべし、大坂城のは止を得ざればなる可し、會津の烈女は亡國の折にて不吉の事たり、たゞ平素女軍を常ねに備えて、一國軍備の定めになすは、方今の天下に最と珍らしきものと云ふ可し。之をダホミーの女軍とす。

近頃佛軍しきりに西亞弗利加に進戰したるより「ダホミー」(西亞弗利加の一王國にて佛蘭西に屬す)の形勢を記せる者佛國の雜誌に續々として見はる。中にてシヤン、ボヤルの筆になれる「ダホミーの軍備」、及び「コトノウの攻擊」と題したるものは極て面白く「ダホミー」が軍制の有樣と、二年前に「コトノウ」に於る戰狀とを記し、ことにボヤルといへるは其夜佛軍一方の將として實際に目擊したることなれば、「ダホミー」の有樣を知るは之に過ぎたるはなし。その文中常備兵の數を記せしを見るに「アボミイ」を護るもの及び平時南北の境々に屯在するもの總計一萬より一萬二千までにして、戰時後備軍となるべきもの國中凡そ一萬なれば「ダホミー」の戰兵は二萬二千の上を越へざるべしといへり。

女軍

「ダホミー」の王宮を護衛するものは女軍の一隊にして、旅客は之を「アマゾン」と呼べり。國人は「ミノス」と呼ぶ由なれど是は國王の愛妻といへる義に當れば、むしろ「アマゾン」の方穩當なるべし。これらの女卒は皆獨身の者にして「アマゾン」といふ意味は神女の軍勢といふ如きものなりとぞ。これら護衛の女軍なるものは中々當り難き勁鋒を有して、至る處の戰爭に功名をあらはし、いかなる强軍と雖もこの「ア

マゾン」に向ふときは常に破られざるはなしといふ。「アマゾン」の女卒が思慮を問へば戰爭の二字の外答ふるものなき程なるが、その訓練は皆幼少の中より仕込みて、殊に王妃に侍する囚女の幼きものを用ゐといへり。軍服は胴衣と短き股引にして帽には鰐魚または猛獸の繡物をしたり。「アマゾン」は「ダホミー」の王宮に住ひて其總數一万五千人を越へず。通例二隊に別れて一人の隊長の指揮を受け、この隊長もまた女にして處々に戰功ありし後選ばれてこの位に昇るものなりといふ。戰ひありて國王の外征せんとするときには、この女軍必ず國王を護衛し、國王の命ある場合の外は敵軍と戰ひしことなしといふ。

姦罪を犯したる男子は罰として其肩に大砲を背にせられ砲卒となる。通例發砲するには煙硝、石、木材等を用ゐ、又馬に乘るものは高位のものゝみにして馬術といふもの開けず騎兵といふものなし。

「ダホミー」の兵

「ダホミー」の兵士が受くる戰術は發砲の法を學ぶといふに過ぎず、毎年招集に應じて來り其間兵器を慣るゝのみなるが戰銃はむしろ其の得意の武器にあらずして、兵士多く短劍を喜ぶといふ。諸方に行軍して踏舞に慣れたれば身躰甚だ强壯にして、大祭の如き日には國王の面前に例の踏舞を演じ、今後戰ふごとに必ず勝利を得んと唱ふとき、「アマゾン」は女性の負嫌ひとてこれに競爭せんことを思ひ、兵士と同じく刄劍を舞はし、王は獅子より猛きゆえ何者も勝つ能はじと唱ふときは國王常に喜びて之を聞くといへり。

「ダホミー」の防禦

「ダホミー」の地たるや「ラマ」の南方鬱林しん〳〵として天然の要害を爲し、內地沼澤多くして行軍に不利なるが上、霖雨の頃に至れば殊に敵軍をなやますのところたり。「ダホミー」の國兵が佛軍に戰はんとして進みたる總勢は眞先に屬國の兵士一隊を成し、國內の奴隷これに次ぎ、常備兵は中軍にして、彼女軍たる「アマゾン」と國王の率ゐたるは後軍となれり。彼等の戰はんとするときは常に未明にして敵の不意を打ち、おそろしき聲を揚げて敵軍の氣を奪ひ、かくして其虛に乘じて彈丸を飛ばすの策に出づるといふ。

「コトノウ」の攻擊

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

千八百九十年五月四日佛軍が「ダホミー」と大に「コトノウ」に戰ひしが、ビダシンの軍は「コトノウ」を驚かして遂に戰不利となり、さすがの「ダホミー」も甚だしき敗北となれり。固より兵に慣れたる佛軍なれば之に敵すべくはあらざれど、このときの敗軍は非常にして兵士全く四方に散落し、散兵を留めんが爲に「アマゾン」の諸方に陣取れるといふを見ても知るべし。しかれどもこの敗北によりて「アマゾン」が最後迄國王の爲に血を流し、刄折れ劔盡きて猶進むの勇氣あるを證し、これによりて大に佛軍を怕れしめ、一つには敵兵をして其奇敏なると雄悍なるとに驚かしめたりといふ。女子といへども其教訓の道を異にするときは驚くべき「アマゾン」の徒を生じて男子をして戰慄せしむることかゝる例しにもれずやありなむ。

批評

○高等小學女子習字帖

小野鵞堂氏の著にして、高等小學四年の一年毎に二冊を習ふとして都合八冊に分つ。簡短より複雜に、粗大より細小に、序でを逐ひて、順次に甘まく書分け、書風も亦た女性に適すと見ゆ。文章は重も實用を主とし、西洋讀本に傚ひて、六かしき文字をのみ冠りせしめて最初に習はしむるなど、用意淺からず。

○明治政史

前の白表雜誌に此書の評あり、云く、もとより論評を試みず、たゞ事實を在のまゝに列擧したるなれば、讀者に公平を得せしむる爲に寧ろ可なりと。面白きは、竹越與三郎氏の新日本史あり。此明治政史は一覽に便利ある方なり。

○桂園叢書

井上通泰君の編輯にて、其第一卷世に出でたり。雲峯生が細密なる批評、次の白表雜誌に掲げらる可し。其一節に云ふ、仄かに聞く、君甞て古草紙に細字あるを見、取つて讀めば桂園遺芳の一種なりき、依て刻苦精營の后ち、君からくして讀み取りしと。亦一遺書の文字甚はだ讀み難く何人も三行を讀み終ふる能はざるものを發見し、讀むと七八度、苦心慘憺の末、君遂に畧ぼ解するに至れりと、云々。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○文學一斑

透谷子が不知庵主人の文學一斑を評したる文も亦た、次の白表に出づべし。其一節に、引例ことにめづらかにして著者が該博なる學識を思ふべし、一轉して和歌の盛衰性格を論じ更に俳諧の起原より芭蕉を品評するなど縱横の筆力羨むべし。最後に戲曲を論ずるところ尤とも著者の識見を覗ふに足る、と。文學の一斑を知るには、便利なる有益の書なり。

家政

家庭の養鷄。

滄柳子

若し數十坪の宅地と數畝の耕地あらば、家禽を飼養し或は野菜を播種して、親しく之が成育發生する有樣を知察し、或は之が世話をなすとの如何に樂しかるべきや、可憐なる子女等が朝夕天然の生物に接して、不知不識慈愛の心を惹き起し、一種靈妙の力を信ずるに至る。彼の孵卵に母鷄を用ゆるも、人工孵卵器を用ゆるも、又古代羅馬に行れたる推積の馬糞中に孵化せしむるも、支那に於ける蒸溫孵化法を用うるも、鷄卵の孵化に至ては、皆等しく二十一時間にて成就するなり。余前年近縣に耕牧して家禽飼養の面白味を覺へたり。若し邸内少々の餘地あらば是非飼養を試み給へ。妻君小供などには殊に適當なる業と信ず。今飼養法を述る前に當り少しく飼養前の心得を概述すべし。

家禽飼養前の心得

(一)家禽飼養を始むる前に二つの大切なる時季あるとを記臆せらるべし、若し此季を誤まれば其結果よろしからず、其季は春秋の二期なり、其内春を最上とす此季を待て孵化せしむる雛は、成長宜しくして產卵亦多し。

(二)家雞の種類は甚だ多く殆ど百余あり、其内實用に適して有益なるもの拾二三種に止まる、又飼養の目的に二あり、之を肉用鷄、採卵鷄の二樣に稱ふ。肉鷄はブラマ、パートリッヂ、コーチン、ドキングの如きを最上とし。卵鷄はレグホン、ブリモースロッーク、スパニッシ、ミノルカの如きは最上にして、余の飼養して慥に我國の風土に適し、產卵も亦多く最とも良種と信ず、且つ食料の如きも甚だ少量なり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

(三)和鷄シャム雜種　は概して食太く產卵少なくして、愛翫的飼養の外決して飼養すべからず。

(四)水食　はエールスブリーを以て最上とす、此鶩は食量太からずして一ケ年間一百五十の卵子を產し、又他の鶩の如く卵に惡臭なく頗る美味なれば、英國にては此種を多く飼養す、殊に此鶩の愛養せらるゝは自から孵化するにあり、且つ此鶩は雪白色にして、池沼流水あらば此鶩を放ちて、天然の美景に一層の觀を添ゆべし

(五)飼養法　に柵飼と放牧の二あり、柵飼は種禽或は種類多き時或は作物を荒さるゝ憂ある時に於てす、柵飼は自から柵内に於て動物礦物飼料を採ると能はず、故に之を供給せざるべからず、然れども放牧に至ては蟲類の如きを捕食し、卵殼に成る所の石灰質、假令ば貝殼或は炭類の如きものを拾ひ喰へり、因て放牧に利益最も多し。

(六)多種飼　は弊害多く甚だ不利益なり、種類多ければ爭鬪多くして制馭に困し玉べし、又日數も多ければ、成るべく同時に孵化せし雛を一群とすべし、斯てすれば眞に和合す。

(七)雌雄の配合　は若し種禽とすれば一雄五雌までとす、採卵を目的とすれば一雄十五雌までを可とす、一雄に斯く多くの雌を配合せしめて假令交尾せざるも雄鷄の鳴聲を聞耳にてよく產卵す、然れども斯く多く配せしめたる卵は譬ば雄の交尾するも精液稀薄にして孵化せざるなり。

(八)食料　は玄米小麥又は白米などを與ふる者あり、斯くては實用的の飼養にあらず、之を實用に飼養せむには、先づ自宅の厨屋の殘物を與へ、其不足は近隣にて安價に飼料の得らるゝやを取調べ、其上增次に飼養する法實に安全なり、假令ば車屋搗米屋の掃きよせ、ビール醬油等の絞り糟、百姓家より米麥のシーナなど廉價にして一羽一日の食料大抵は一厘五毛より二厘までにて飼養せらるべし、かゝる飼量にて飼養し得れば、必ず利益あるべし、レグホン、ミノルカ、スパニッシの如きは、飼養法宜しくば一ケ年間に二百五拾個の產卵を得るとあるべし。

○合衆國の女子

ウイラード會頭が、五月分のアレナ雜誌に女權伸張の事を論じたる文中に云く、合衆國内にて、三百万の婦人は自力にて衣食せり、四千四百種の職業は婦人の擔當となれり、四万の女子は大學中學にて修業中なりと。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

史傳

○加賀千代女

湖東生

千代女のこと女學雜誌第三百十號に載られ、其俳諧の非凡にして尚女流の趣あるをうかゞひたりしが、今かく上達するに至りし熱心のあらはれたるを記さんに、千代女幼より風流の志ありて俳諧をたのしみしが、其師を得ざれば、志ある人に其師とすべき人を尋ぬるに、皆美濃の盧元坊なるよしを答ふを以て、行て學ばんと思ひし際幸にして行脚して來りしかば其旅宿に就て相見んことを乞ひ志をのぶ、草臥たりとて寢たる所に行き敎を求めしにされば、一句せよといふ初夏の比なれば時鳥を題とすやがて句を吐たるに、其たゞものならざる氣韻を見て其句をうけがはず、こは誰もすべき所なりといふさらばとて又一句を吐しに背はざること初の如し、元坊は既に眠につけども女はなほ去らず、沈吟す其眠のさめたるをうかゞひては又一句をとふ、かくて數句に及び終に曉天に至る元坊起て終夜去ざりしか、夜は明たりやと驚たるとき千代女

　ほとゝぎす〳〵とて明にけり

といへるを大に賞し、是なり〳〵汝他日此意地をわするゝことなくば名天下にふるはんとて、師弟の約をなせしが果して女流に珍しき此道の高名に至りしなり、專心一意其業にはげむは成功の秘訣といふべし。

○矢部まさ子

湖東生

矢部まさ子はじめの名はひさ子といふ、美濃芝原の鄕北方の人、年十六にして同國結の里大平某に結びて一女を擧ぐ、婚後三年、其所天の忍び妻の故をもて忘られ、彼の女をつれて母の許に歸り後再嫁せず、家を移して母と共に京都に住み書、歌、茶、花、女禮、長刀の術を學ぶ此間たま〳〵故鄕に歸りしとき、もとの夫、後妻あり子女あるにもかゝはらず、人をして意を通じ、文を贈り以て己に從はしめんとせしとき、之に返する一首の歌を添ふ

　秋にあひて枯にしものを今さらに何おどろかす萩の上風

後己が女のためにとて年二十六にして或國守の姫君の傅となり、名を呉と賜ひ、江戸に仕ふ、才あるを以て寵せられしも同僚の妬むところとなりて退き尚彼處に留る、一年余、知人

のすゝめによりて歌道を敎へしに學ぶもの百に及びたり然るに偶火災に遇ふて困難し辛じて京都に歸るを得しも母と女と前後に逝きしかば悲哀に堪へずして終に尼となりて惠靜と名く時に年二十八なり、此時人の止めしに答へし歌に

淺からず諫るとに反かめや大かたに世をうしと思はゝ、

また或親友遠方にありて此事をきゝ

かわく間も淚に袖の朽はてゝ衣かへぬときくはまことか

思ふにも違ひのみゆく世の憂や眞の道のしるべなりけん

といひ送りしに返して

墨染に衣の色はかへしかど變らぬものは袖のうへの露、

思ふこととげに違はずば世の中に仇なる道に迷はてまじ、

といへりとぞ、かくて翌年病で死せり、

題しらず

水底に沈める月も入はてば何をうき身のたぐひにはせん

瀬によせて懷をのぶ

世の中は飛鳥の川と聞しかど身のうき瀬こそ變ざりけり

才子多病佳人薄命まさ子も亦此一人なりしなり、世人此間の覺悟如何。

ソクラテス曰くもし男女を同等の地に置かば、女子は直ちに優等の地に上る。

論説

日本に於る基督敎主義

女學校の目的如何

大坂にて A. D.

（左は大坂梅華女學校の西洋女敎師より寄送せられしもの也、譯して彼の人々が所説の一斑を示すと云ふ、女學雜誌編者）

その目的を問はゞ日本の靑年女子をして賢く强き基督敎徒とならしむるにありといふべし。予等はこの目的を成就せんが爲に如何なる方法を取るべきか。愚考するところに據るに、第一には謹愼の心を以て日々聖書の研究をなすべし。これによりて眞の神を知り、又神に對する予等の責任を明かにして淸き生涯に入るの門を開くことと聖書の研究に及ぶものはあらじ。第二には敎會、日曜學校、祈禱會または信徒の「ホーム」に必要なる種々のあつまりに學生を導きて、その道念を養ふべし。第三に必要なるは是等女學校の敎師たるものは皆熱心なる基督敎徒にてあるべし。敎師の第一の資格は其人物にして、次には其智識、次には其才能なりとす。もしこれらの敎

師にて其教ゆる學生に高き德性を發達せしめんことを願はゞ先づ學生の前に高尚なる理想と氣韻ある標準とを示して、教師自ら言葉と品性とにより日々その教へんとする眞理を說明せざるべからず。

次に必要なるは生理學の研究なり。しかれどもこれは成る可く理論を避けて實際の事柄を學ぶようにすべし。人間の骨の數はいくら／＼躰內機關の構造はしか／＼なりと言ひ得るとも、予等はこの生理學者に滿足する能はず。いかなる方法にして研究すべきやといふに、料理のこと睡眠のこと運動のことと衣服のこと健康のことなどにつき、その性質方法を充分に明かにして生理學の爲に使はるゝものとならず、生理學を使ふものとあるべきなり。教師は實際にこれらのことを教ゆる爲め、常に熱心にその勤めをなさゞるべからず。たとへば今の女學生のうちには、その不學なると無經驗なる故より或は熱湯に浴して後寒冷のところに冷むごとき、或は一日木綿物の重き衣裳を着け翌日は晴手に見ゆる爲め輕羅をまとふ例しのごとき、或は寒天に「シャツ」を脫ぎて乾きゝらざる日に晒すごとき、或は世話を燒くもののなきときに夜半遲くまで笑談に時を移すごとき、或は人の忠告を受けざれば適宜の運動をなさゞるがごとき是皆な教師の注意すべきものなるべし。予等の殊に困却するは富家豪族より預る女生にして、彼等は家にあり別に是といふ程の仕事もなさず僅に裁縫をなし花を聚むるなどのことに日を暮すのみなれば、予等の許に來るや眼も弱く、頭部も弱く、あまつさへ運動を好まずして身躰のあはれなるもの甚だ多し。

精神上發育の方法につきては舊來の習ひを改めざるべからざるものあり。舊來女子教育の上に於て道理の働きのみを左程に發達せしむるは大によろしからざるのみか、殊に多くの科目を全能ならざる女性の腦髓に强ゆるは大なる不幸といふべきなり。未だ充分に發達せざる女性の爲に困難なる勉學を强ひ、解し難きものをも無理にせよといふは學生の爲に不幸これより大なるはなし。予等は多年の經驗によりて、女生に多くのことを知らしむるよりは、むしろ一事をよく知らしむの利を知れり。廣く知らしむるよりは、深く知らしむるの益を知れり。日本に於る多くの父母は、西洋古代の人民の如く、女生の學校に在ること永く書を讀むこと多きを以て、彼等が

學問の深きこと〻思へり、あやまれるかな。
日本の父母は又女學生の書を讀むこと、天地の道理を知り自然の法を讀むこと、小兒らくし優弱なるところを脱すること又は智識を得て品性を養ふこと、これらは皆女性の爲によろしからずとなす。何ぞ其あやまれるや。これは無識なるもの〻言ふ可きこと、または男性の我儘なる僻見より出でたるものにして、彼等は智識ある女子に尊敬せられんよりは寧ろ愚鈍なる婦女の諂言に耳を傾くるものなり、日本の女子を重んずるの一人として、殊に多年彼等を觀察したるの一人として、予は日本に於る多くの女子の温厚優和なる美性を養ふべき自由教育を受けざるを知り、これを受けたるものは清粛なる淑徳に智識と品位とを加へて、その無學にして不幸なる姉妹より遙に高尚なる位置にあることを知れり。詩人テニソン曰く女子の爲は男子の爲なりと。この故に國民の半分のみを教育して其半分をば無識の中に置くこと、不利にして且つ國を愛するの道を知らざるものといふべし。
また青年の女子は纎弱なるものなれば、螢雪の勞に堪ゆるものに非ずといふものあり。予は徒に論難するものにあらず、過去幾十年間諸國に實驗せられたる事蹟に徴するも、その統計を明かにするときは、青年女子の勉學して身躰を弱むるがごときことなきはおろか、勉學を無法にせずして巧みにするものは反て男女青年の健康を助くといふにあらずや。學校の生涯の規則だてること、身躰と精神とを適當に用ゆること、日々働くが爲に一定の目的あること、これらは皆健康に欠くべからざるものなりとす。西洋にて青年女子の貧なるが爲に學校に來る能はざるものは、無氣力なるものとなり、富有なる家に生れしものは纎弱陰鬱なるものとなる。日本に於ては彼女は心身の充分に發達せざる前に既に婚姻に追はる〻もの多く、春未だ來らざるに早く一生の蕾を破り、これが爲に年少の女子にて老人のごときもの滔々みな然り。豈に思ふべきの至りならずや。(未完)。

希臘人、埃及へ來る、埃及の人は曰く、我國にはナイル河ありて水を供するとなるに、希臘には雨と露と降りて直ちに神の惠を蒙むる。神は希臘にあつくして埃及にうすしとつぶやきたり。然るにナイル河の河上はアビシニアの森林に雨露のしたゝりて源になれるを知らざる也。

時事

○海水浴

潮の風に暑さを拂ひ、波打ぎわに汗を洗ふ、海水浴は樂しきものなれ。玆に男女の浴場を仕切らんとは、言ふべくして行なわる可らず、誰か强ひて之を排ぜん。然れども、切めては女らしき愼しみと云ふものはありたけれ。浴衣は餘り薄き無地の布を用ゆるとなかれ、膚の色うつりて、心ある人に赤面せしむ。成るべく堅じまの稍や厚きを擇むべし。雜駁なるを西洋風などと言ふとなかれ、西洋婦人が膚をかくし、デリケシー(愼しみ)を重んずるの心得は寧しろ感服すべきものある也。吾人は、女學生が騷々しからぬとを望む。

○温泉場の仕切り

近頃ろ、或る西洋人が片田舍にて男女混浴のけしきを寫眞に取りたるよし、聞くも憤慨の至りなれど、更に一考するに、寫眞に取ると取らざるとは暫らく論ずる勿れ、現にかゝる醜態の行わるゝと多く、たゞに片田舍のみならず、都人の往來を賴みとする温泉場などにて倘ほ依然として行わるゝを見るは悲しきとならずや。かゝる所ろに遊びたる人々は、たとひ男女間に仕切りなくとも、實際に於て仕切りあると同じく、時間を別にせしめて入浴すべきもの也。

○九鬼氏を非る

近頃ろ技術者同盟の名を以て、九鬼氏洋風技術を排斥せし例證及び美術保護論、と題する一長文を、各新聞に投じたり。其中の一節に云く、

嗚呼余輩技術者は言論に疎く反論議を好まざるを以て非理を忍び俯伏嗚咽するもの玆に數年今や屈辱に堪へず號泣して天下に訴ふ冀くは志士仁人是非曲直を審案し余輩實業者をして少しく伸る所あらしめよ。

又の一節に云く、

保護者、技術者を自己の指揮に從はしめんと欲する者あり是れ全國技術者の美術思想も自己一人の能力に及ばずと自負する井蛙の見より生ずる過失なり抑そも美術の深遠なる不世出の天才一生の全力を費やすも倘ほ盡さゞるを恐る豈に事務官や官吏輩が奔走の片手間位に知了し得るものならんや。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

前なる嗚咽として涙とゞめあへず、后なるは慨然として怒り冠を衝の氣象あり。眞に止ことを得ざるの宣言なる可し。さりとても亦我國に洋風技術の發達大に妨られ、世界の大博覽會に、洋畫一品をも我國より出さゞるの結果とならんには、それ何人の過ぞや。九鬼氏たるもの大に省ずんばある可らず。

○洪　水

本年は亦洪水の害あり、天の災ひ年々に降り、一歳も寧き年はあらず。仁人よろしく義に勇て應分の助を爲す可し。而して平素皆な儉に約する所ありて、かゝる折々の必要に義捨するの用意なかる可らず。心得べきは節儉にあり。つゞまやかにして蓄へ、以て之を善き道に施すは、何等の愉快ぞや。

○女子參政權

英國々會には年々女子參政權の議案出づ。本年はサー、ロルリット氏之を提出し、彼の市會議員の撰擧に女子にも男子同樣投標權を與るの例に倣ひ、國會議員の撰擧にも亦此權を授く可し、而して資格は戸主たる婦人のみとすべしと立案したり。然るにグラッドストン氏は、モルレー氏が反對論の宣言者に與書し、此案をして二次會を通過せしむ可らずと論じハーコート氏も、此案もて可決せば、余は政界を退ぞく可しと迄で痛論したりしかば、本年も亦た否決となりぬ。左れど、僅二十三名の少數にてありしかば、議論の勢力は著じるしく增加せるものと云ふべし。英國にては、保守黨つねに此論に加擔し、自由黨之に反對する所以、少しく奇なるに似たれど、女子は保守の性質あるものゆへ、之に投標權を與ふれば寧しろ保守黨の利となるべしとの一説も理由となりて、かく保守黨の贊成を得ることなり。現に去る頃は、保守黨の首領、兼總理大臣たるサリスベリー侯は、公けの宴會に於て、女子參政權に贊成せる旨を演述し、一時全歐洲の耳目を聳動したるとあるなり。而して、自由黨が之に反對するも、女子を男子よりも劣れりとして主張するにはあらず、亦之に權ある可らずとするにもあらず。たゞ、必竟女子の性を重んじ、女子は寧しろ黨派の爭の上に超然として立ち、其調和にても盡力すべきものなれ、女子が政海に働らくの方法は、男子の方法と異なるべしと云ふの主旨にある也。グラットストン女子の參政權に反對すと聞きて、速了の誤解を爲すと勿れ。保守風の人しばしば此の誤を爲す。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

孤兒之友

畜翻子編

○名古屋震災孤兒報告

同院の報告は、本號の附錄として、別紙を添ゆ。

○聖約翰入會附屬大坂救兒院寄附物品報告

（本年三月より六月に至る四ヶ月間）

一腰卷　五ツ　紀州　某氏
一シャツ　三枚　仝　仝
一小供腰卷　六ツ　仝　仝
一更紗小切　五ツ　仝　仝
一小供洋服　貳組　仝　仝
一仝ヅボン　貳ツ　仝　仝
一仝チョッキ　貳ツ　仝　仝
一ネルのシャツ　壹枚　仝　仝
一蒲團表裏　各壹枚　仝　仝
一小供帶　貳筋　仝　仝
一小切　拾種　仝　仝
一筆　九本　仝　仝
一猿股　壹ツ　仝　仝
一腰巾着　壹ツ　仝　仝
一腰卷　壹ツ　仝　某氏
一筆　三十三本　仝　仝
一木綿小切色々　仝　某氏
一帶ノ心　貳ツ　仝　仝
一手拭　壹筋　仝　仝
一足袋　壹足　仝　仝
一ぱつち　壹足　京都　某氏
一小供西洋服ヅボン　貳枚　仝　仝
一靴下　四足　仝　仝
（以上　三月分）

一双子洗張　壹反　大阪　小倉氏
一綿縮緬解物　壹反　仝　仝
一紅木綿裏　一枚　仝　仝
一紺飛白半天　壹枚　仝　仝
一東京浴衣洗張　壹反　仝　仝
一花色木綿八掛　壹組　仝　仝
一前垂　壹ツ　仝　仝
一菓子　若干　仝　皆川氏
一小供洋服　壹組　仝　エビントン氏
一仝ズボン　貳枚　仝　仝
一仝女洋服　壹枚　仝　仝
一仝前垂　壹ツ　仝　仝
一靴　三足　仝　仝
一メリヤス肌着　壹枚　仝　仝
一小供洋服上着　一枚　仝　仝
一靴下　六足　仝　仝
一風呂敷　壹ツ　仝　仝
一フランネル單衣　壹枚　仝　十時氏
一更紗胴着　壹枚　仝　仝
一足袋　五足　仝　仝
一敷蒲團　壹枚　仝　島崎氏
一双子袷　貳枚　仝　仝
一腰卷　壹ツ　仝　仝
一座蒲團　壹ツ　仝　仝
一小切種々　仝　仝
一花簪色々　仝　仝
一菓子箱其他玩具色々　仝　仝
一薩摩飛白單衣　壹枚　仝　藤本トゆう
一花色飛白帷衣　壹枚　仝　仝
一茶縞張上　壹反　仝　仝
一新聞紙　百七十枚　仝　清水多助
一塵紙　千枚　仝　山口信太郎
一前垂　壹ツ　仝　竹原氏
一手織縞洗張　壹反　仝　北里終
一前垂　壹ツ　仝　三木氏
一吾黨之女子教育拾册　東京　巖本善治
一嬋娟公論　五册　仝　仝
（以上　四月分）

一小供洋服　壹組　大阪　船越氏
一莫大小シャツ　貳ツ　仝　仝
一小供足袋　二足　仝　仝
一煎餅　若干　仝　多木氏
一仝　仝　仝　佐野氏
一大鯛　壹尾　仝　稻垣氏
一煎餅　若干　仝　高橋氏
一饅頭　三十箇　仝　兒嶋氏
一煎餅　貳袋　仝　島崎貞子
一洋服　四組　仝　テーラ氏
一フランネルシャツ　五枚　仝　仝
一寢衣　二枚　仝　仝
一女子洋服色々　仝　仝
一靴下色々　仝　仝
一靴　貳足　仝　仝
一カンヘ小供ねまき　貳枚　仝　仝
一粥餅　貳拾箇　仝　稻垣氏
一前垂　四ツ　仝　吉田病院內某氏
一腰卷　壹ツ　仝　仝
一夏洋服　貳ツ　仝　仝
一小供單衣　壹枚　仝　仝
一古筆　若干　仝　根來忠次郎
一墨屑　仝　仝　仝
一干大根　百拾本　仝　仝
一糸入縞單衣　壹枚　仝　桑原直子
（以上　五月分）

一ふくりん帶　壹筋　仝　北條氏
一仝前垂　貳ツ　仝　仝
一小供洋服　貳枚　仝　宮浦氏
一仝單衣　貳枚　仝　星野氏
一仝單衣　壹枚　仝　仝
一晒半天　壹枚　仝　仝
一墨　拾丁　仝　仝
一筆　拾本　仝　仝
一小供下駄　五足　仝　米津仙之助
一古下駄　四足　仝　菅沼氏
一襦袢　三枚　仝　藤本トゆう

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

一腰卷	三ツ	仝	仝
一白飛白浴衣	壹枚	仝	仝
一鬱金色裏地	壹組	仝	仝
一タフチヨツキ	壹ツ	仝	仝
一男帶	壹筋	仝	仝
一縮緬友仙切	三ツ	仝	仝
一唐縮緬帶	壹筋	仝	仝
一同袖掛	貳ツ	仝	仝
一板	貳坪	仝	星野氏
一半紙	四折	仝	仝
一乾餅	若干	仝	仝
一饅頭	二十五箇	仝	高橋氏
一菓子	壹袋	西京	小松氏

（以上六月分）

右之通候也

明治廿五年八月

聖約翰婦人會

女報

可愛子編

●御救恤　兵庫、岡山、德島の三縣非常水害の趣憫然に思召され、去る四日、天皇、皇后兩陛下より、右三縣下へ御救恤として、各金二千五百圓下賜ひたり、又商船會社瀛船猪川丸、去月十三日小豆島近傍に於て難破し、乘員五十餘名死亡せし趣憫然に思召され、去る三日御救恤として）天皇、皇后兩陛下より遭難者遺族へ金二百五十圓下賜ひたり。

●行啓　皇后宮陛下は、去る六日午前十時御出門、青山御所へ行啓あらせらる。

●伏見宮御生母殿下の御危篤　伏見宮貞愛親王殿下の御生母に當らせらるゝ故一品邦家親王殿下の御息所景女殿下は、此程少しく御不例の趣きなりしが、俄に御容躰重らせられ、去る八日朝の加きは最と御危篤の模樣なりしに付、同宮別當眞木海軍中將は早天に參內して、其旨奏上に及ばれしより、天皇、皇后兩陛下には大に御心を惱まさせ玉ひ、俄かに、皇后陛下御見舞として午前十時御出門、同邸へ行啓在らせらる、然るに殿下には遂に御養生叶はず同日午後零時五分薨去せられたり、柩は、十二日午後二時麴町紀尾井町伏見宮出邸、芝公園增上寺に於て葬儀執行の上、同九時五十分新橋發瀛車にて京都へ回葬し、同府下相國寺へ埋葬相成りたる由。

同殿下は故從一位鷹司政熙公の第十九女にして、文化十年閏十一月二十四日の御誕生にして今年八十歲の高齡に上られたり。

●佛國公使の半旗禮　去る八日故小松宮邦家親王妃景子殿下薨去せられたるに付、佛國公使は、二十日より半旗を揭げ吊禮を表したり。

●二位局那須に赴かる　中山正二位の局慶子の方には、去る十日上野發第一列車にて那須の別邸に赴かれし由。

●村雲法尼　は去る八日午後五時、國府津より上京淺草本願寺別院へ御投宿あらせらる。

●細川女子高等師範學校長　近縣旅行として去る八日出發せり。

●女生洋行　明治女學校高等科卒業生榊なつ子は、看病學修業の爲め米國に留學せんとて、京都の長尾ひさ子と共に、去る七日橫濱出帆の米國郵船ゲーリツク號にて渡航せり。

●共立女子職業學校　神田一ツ橋通町なる共立女子職業學校に於ては、去る四日卒業試驗を終り、十日證書授與式を擧行せりと。

●日本婦人會出品の繪畫　米國シカゴ大博覽會の爲めに組織したる日本婦人會にては、此度東京にて八名、京都大坂にて各二名の婦人畫家を選拔して揮毫せしむることに決し、夫々選定中なるが、東京の八名中既に決定せしは、左の六女史なりと但し等級は博覽會にて褒賞を受けたる等差に據る、

（一等）野口　小蘋　（二等）跡見　玉枝　前田　錦楓
（三等）佐久間棲谷　高林　芳谷　狩野　某

尙ほ跡見花蹊女史も委囑を受け、婦人洋畫家中よりも二名を選拔する筈にて相談を懸けたるが、洋畫家は多分辭退すべき模樣なり、又選定せられし畫家は來る十一月中に揮毫し終る約なりと聞く。（國會）。

●幼稚園分室　女子高等師範學校にては、今般附屬幼稚園分室を設け、當分幼兒三十人を募集し、來る九月十日より開園の豫定にて既に假規則をも設けられたり。

●明治二十四年東京府女學の概況　◎市町村立小學校に於て、訓導たる女子は九十九人、授業生たる女子は七十四人、同年中學力撿定試驗に及第せし女子は九十人あり◎專門の學校に學ぶ女生徒は四十四人あり◎府立高等女學校は、教員十二人、生徒二百十三人あり、同校は女子に高等普通の教育を施す目的なれども、生徒中小學校教員志願の者には、特に教育學、學校管理法、實地授業法等を授けて教員たるに適するの技能を得せしむることとせり、同校創立以來、同年始めて卒業生五十三人を出し、此中小學校教員の資格を得て實際教職に從事したる者十八人あり◎私立高等女學校は、十五校にして、教員男六十六人、女百十人、生徒千五人あり、之を前年に比すれば、學校は二校、生徒は二百二十四人を減す、同年中卒業の生徒は二百十七人あり　◎各種學校の女教員は、百二十二人あり、前年

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

より二十九人を增す、女生徒は二千七百七十五人あり、前年より八百八十四人を減ぜり、◎幼稚園の保姆は、市立に四十六人、私立に四十五人、合して九十一人前年より八人を增せり。

●工女の拂底、壯夫の護衛　本年は糸況頗る好景氣なるに引換へ、繭相場の之に伴はずして依然沈靜なるより、隨て生糸屋の利益少なからざれば、是迄廢業せし製糸家さへ俄に元氣を回復し、山梨縣下にては、各製糸家何れも競爭して工女を雇入るゝ摸樣にて、中には浴衣反物等を與へ又福引を以て種々の物品を與ふるなど何れも工女を引入るゝに抜かりなき程なれば、中に狡猾なる工女は二三軒の製糸家へ約束し、賃錢の前借などし置き、其儘音沙汰なきを以て、製糸家にては拂曉より人を其家の門口に佇ませ置き腕づくにて連れ行くことも屢ばなるより、近頃偏强の若者共を其後に從へ護衛として製糸家に通勤する工女も少なからずと。

●婦人慈善會　丹波船井郡園部町にては曩きに同地の貴婦人令孃等が矯風慈善會を組織し、目下會員七十餘名に達したるが、毎月第一土曜日を以て園部尋常小學校講堂に談話會を開く事とし、既に去る六日例會を開きしに、出席者夥しく頗ぶる盛會なりしと云ふ。

●中井夫人の三週年忌法會　前近江慈善會長故中井夫人の三週年忌法會は、去る九日午後二時より大津櫻町大谷派本願寺別院に於て同慈善會の催しにて行ひたり當日は會長大越夫人始め、園田夫人其他の會員等、何れも出席し、來會者無慮百餘名、參詣人は千五百名に及びしが、奏樂を以て法會を執行し、終て渥美赤松二師の演說あり、更らに來賓及び會員一同に美麗なる箱入菓子を饗し、且つ故中井夫人の同慈善會に寄せたる一首の歌「うきを聞ばともにあふみのこゝちして人のうへとも思はざりけり」を書附たる扇子を配り、四時過ぎ閉會したり。

●奇怪の計畫　雲州松江市より、嶋根郡美保關に達する二種道路改修は、已に測量を了りたるが、石橋町一部の人々は、繩手後の新道は、法吉村に屬して市外なれば同所に一の劇場を新築して同町の賑ひを添へ、尙ほ出來得べくば遊廓を設置せんとて、寄り〳〵協議中なりと、該地方の新聞に見ゆ、近來何ぞ奇怪の擧を企つる者の多きや。

●藝妓屋退去の計畫　宮城縣仙臺市の青年基督教信徒は藝妓の如き賤業者が良民と軒を接して住居するは不都合なれば、速に市の邊隅に退去せしめんものと、目下縣知事に向つて請願の手續を協議中なりと云ふ。

●中津に於ける非遊廓設置運動　慨然として吾人は屢々報ぜり　豐前中津の地、遊廓設置の擧ありと、而して今や喜ぶべきの報に接す、曰く該地の青年蹶起して之に反對すと、其運動の第一着歩は、去月二十六日に開きたる演說會にてありけり、同三十日又演說會を開く、聽衆六百餘名、同地の輿論爲めに動きぬ、尙益々盛に運動を試むる筈なりといふ。

●上毛青年會全國廢娼大運動會　同青年會は、其目的とする全國の廢娼を期するてふ事を實行せんとて、會員二名先づ東北地方に向て遊說せり、其人は石嶋良三郞、關根元哉の兩氏なり、兩氏は去る五日、六日、七日、福嶋地方に遊說し盛なる演說會を開き處々に喝采を博したりといふ。

●婦人の慈惠　愛媛縣宇和島に滯在中の積陳重氏の令閨歌子、八束氏の令閨松子は、數日前同地の慈惠小學校を參觀せしが、耶蘇教信者にして如斯擧あるは聞く處なるも、佛教者にして斯の如き慈惠の學校を設立するは珍らしとて、直に歌子よりは金五圓に教育畫四十枚、松子よりは金三圓に教育畫十五枚を、同校へ寄附したりと云ふ。（愛媛新報）。

●高知婦人實業會　兼て記載したる同會は、去る三日午后四時より追手筋本願寺別院に於て集會を開き。會則を議定し、役員の撰擧をなせし處、取締には淸水昌作氏、谷女史、會計には小栗女史、桑名女史、顧問には弘瀨爲興氏當撰し、十日に開業式を執行する趣なり。

●長崎活水女學校　は美以女學校中第一を以て目すべき者也、教師は外國人減じ日本人增し、其人物も學識に於て他校に比して優等なる者多く、教授は英作文、會話の外悉く邦語を用ひ、油畫、彫刻の二科は、從來外國人の擔任なりしが、今は美術學校より日本教師を聘し、裁縫は和洋とも教授し、同じく日本教師の擔任する所なり、女取締は淑良の婦人に囑托せりと、護教に見ゆ。

●マレー島太守夫人の札幌行　英領マレー半嶋太守ローザヤー氏の夫人並に同令孃は、北海道物產共進會縱覽として、下婢一名を伴ひ、去る七日札幌に到着せし由。

●大阪府立農學校卒業の女生　大阪府立農學校にては、養蠶及製絲科卒業女生十一名、製絲卒業女生十六名を出せり。

●明治二十四年栃木縣下女學の槪況　◎女子にして公立學校の教員たる者二十二人、授業生及助手五十六人あり◎中學校内に設立せる女子高等普通學校は教員三人、生徒の同年中入學せし者十四人あり、之に前年末の現員三十五人を加ふれば四十九人とす、其内退學者十四人、卒業者五人を控除すれば、年末の現員三十人、前年より五人を減ぜり、又其退學者は家事の都合に出でしもの九人、疾病一人、師範學校へ轉學者四人、其卒業者は東京女子師範學校へ入學の目的なるもの二人、東京音樂學校へ入學一人、自家の業務に就く者一人、死亡一人なり、生徒の學業は前年の方針を取り、殊に工藝科を改良し、實業の錬習を實地に修めしめたるを以て、稍々上進の勢あり◎師範學校に學ぶ女生徒は八人、同年の卒業者十二人なり。

●明法二十四年兵庫縣下女子の槪況　◎各種學校に女教員たる者七人、前年より五人を減ず、女生徒は百五十五人、前年より九人を減ず、卒業女生は十三人、前年より五人を減ず　幼稚園保姆は十四人あり、前年より四人を增せり

●明治二十四年熊本縣下女學の槪況　◎公立小學校の女訓導は一人、授業生は七十三人あり◎私立各種學校の女教員は十三人、女生徒三百二人、卒業女生四十一人◎幼稚園の保姆は九人あり。

●三重縣通信

三重通信員

⦿藤堂拙齋氏の未亡人逝く　舊津藩主藤堂伯を助けて、津藩に有造館を設置し、文武の道を盛にせられし故藤堂拙齋翁の未亡人たえ子は、いぬる三日八十四歳を一期としてみまかりぬ、さすがは名士の夫人、會葬共だ多かりしとぞ。

⦿佐伯秀子女史　豫報せし如く、同女史はこの度本縣尋常師範學校訓導に任ぜられ、五級俸（十五圓）を下賜せられぬ。

⦿拙堂氏未亡人　文章を以て雷名を轟かせし齋藤拙堂翁の未亡人は、慶應元年に翁と別れしより、其子故誠軒氏の未亡人梅子と、翁の別莊なる津市茶屋町茶磨山の邸に居られしが、（孫次郎氏は現に東京益友社にあり）梅子は肺病にて二十三年の夏死去せられ、同未亡人も本年春より眼を病み居られし處、二三月頃に至て俄に兩眼を失して全く盲目となられぬ、ために身躰いたく衰弱し、鬱々とその日を暮し居らるゝとなん、聞くも痛はし。

⦿孝女とせ紀念碑　同紀念碑は、もはや彫刻も出來上りたれば、目下石摺りに着手中のよし。

⦿三重女學校　いま同校々員にきくに、同校の存立はとても覺束なくして、かの某委員の師範學校女子部說ならば兎も角も、さりとて此說も雲をつかむが如き說にて、本縣の如き女學に冷淡なる處にては六ケ敷からん云々と、嗚呼三重縣唯一の女學校いまや將に亡びんとす、然るに本縣人が之に向て、對岸の火災視するは何の故ぞ。

●福井通信

秋山貞二報

⦿高等女學校長の諭示　當市の縣立高等女學校は、去る十九日より暑中休暇となりしが、同校長加藤寬六郎氏（本縣參事官）は、翌二十日特に全生徒を同校に招き、近來同校生徒が一般に衣服の美を競ひ奢侈に流るゝ傾向あるを誡め、且つ節儉の美德なる所以、幽閑貞靜の淑德を失はざる樣心掛くべき旨懇々諭示せられたり、又同校は、舊足羽吉田郡役所を暑中休暇中に改築して、同校舍に充つる筈なりと。

⦿知事の品行　兎角官吏社會は驕奢に流れ、傲然蓄妾し、或は花柳の地に出入するもの尠からざるが、本縣知事牧野伸顯氏は、流石に風紀大臣の拔擢したる丈けありて、年尚壯なるにも拘らず、最も品行を砥厲し、且つ極めて質素を主とするが故に、部下の官吏も自然に之を見習ひ、登樓蓄妾者も非常に減少したるゆへ、中筋邊の料理屋等は何れも愚痴を翻ぼし居れり。

⦿唱歌と兒守謡　七八歳乃至十七八歳の兒守が街頭鄙猥の俚謡を叫び廻り、自然に風俗を紊亂するは、吾人の痛嘆する所なりしが、近來村落の小學校に唱歌の一科を設け、オルガンに合せ節面白く唱歌するにぞ、一般の兒守も之を覺へて、鄙猥の俚謡を止め、高尙なる唱歌を街上にて口唱するもの多し、矯風上末賴母數き事にこそ。

●朝鮮王子義和宮婚事　王子義和君の嬪宮は、王妃殿下の御旨にて、諸權家權力の平均を保つ爲め、閔家以外に求め、韓曆七月一日に大禮擧行あるべく旨先きに報道せしが、近時宮室內取込める事多く未だ嬪宮の御撰定もなく、且つ大禮の準備も整ひ居らざれば、今暫く御見合せとなれり。（朝鮮新報）。

●一品伯夫人　淸國政治家李中堂氏は去る三日一品伯夫人趙氏の不幸に付き、前後三週間の忌引を爲したるよしなれど、緊要事件の起る毎に自ら處理すること敢て平常に異ならずと云ふ、婦人は從來內政の聞え高く、婦人慈善病院を設け、米國女醫を延き、其他貧民救助に盡力せしこと少なからずと云ふ。

●頓死者　婦人の頓死者は、之を男子に比するに其の數非常に少にして、八人に對して一人の割合なり。

●伊太利の婦人　全國には一千百万の婦人あり、其の中工業に從事する者は二百万人、農業に從事する者は三百万人なり。

●墨西哥婦人　同國の婦人は貴賤悉く其の頭を露出せり。

●婦人の郵便局員　米國中郵便局員として勞働する婦人は六千人なり、其の中最も多き所はペンシルバニヤにして、其數四百六十三人、之に次ぐ者はヴイルヂニヤにして其の數六千八なり。

●本年六月米國ウーストル大學より哲學博士の學位を得たる一婦人あり、ロボルトソン夫人といひ、現今インデアン州なる赤色人種の間に住し、傳道に從事せり、同女が今度榮譽ある學位を授けられたるは、新約全書を希臘原文よりインデアン種族の記に飜譯して近頃其業を大成したる功勞に酬ゆる爲なり、同女は又同種族の文法、辭書等を編成し、殊にモスコギー種族の土音に達したるとは、現今同女に及ぶものなく、今や六十五歳なりと雖も、尙同種族中にあり文筆に從事し、傍ら傳道事業を助け居れりといふ。

●匿名の寄附者　バルチモーアの婦人大學に、匿名にて二十五万弗を寄附せし者あり。

●婦人の長老及び婦人の牧師　カンバーランドの長老教會は婦人を長老とし、新メソヂスト教會は婦人を牧師とするとを可決せり。

●蛛網の衣　千八百八十七年ブラジルの皇后が、英皇ビクトリヤ陛下に贈りたる者は蛛網を織り成したる衣服なり。

●ヂルク夫人哭泣す　艶聞と技倆とを以て兩ながら名を馳せし英國自由黨の名士ヂルク氏は、愈フオレスト、オヴ、デイーン區より擧げられて代議士となりしが、其受けたる反對は實に非常にして、其撰擧會の開かれし時は、一人ヂルク氏を排斥するの決議案を提出し、併せて當區撰擧人は單り德行高尙の人物によりて代表せられんことを希望すとの決議案を出したり、倩演壇の上にはヂルク氏を初め、同氏の夫人も列席し居たりしが、此決議案の時に當りては流石才識男子を壓するヂルク夫人もいたく哭泣せりと、斯くて此決議案は多數を以て通過したるも、實際撰擧の時に到りては、ヂルク氏終に大多數を以て當撰したり。（國民新聞）。

●スタンレー夫人　は其夫スタンレー氏の撰擧區に於て、盡力奔走一方ならざりしが、遂に其功なく夫の失敗を見るに至りしは、惜むべき事なりかし。

●佛國前皇后ユーゼニー　ナポレヲン三世の皇后たりしユーゼニーは、日々其の邸の近傍なるナポレヲン三世の墓に詣ふで祈禱するを務となす、ナポレヲン三世、及イムペリアル親王の石塔の下には、各一箇のアーム、チエーアと、一箇の祭壇あり、而して美麗なる花環は石塔の周邊を圍繞し、人をして昔の榮華を憶起せしめ、馥郁たる華榮は壇前に散布し、時人をして花に懷舊の涙を濺がしむ、后及其の母は、日毎に其の間に跪座して祈禱するを常とすと云ふ。

●近頃擧行されたるジョンスホプキンス大學病院の看病教練級二學年を卒業せし生員二十一人あり其首婦たるイサベラ、ハムプトンは教練學校の事務に付きて演せり當時の醫員は都て七名にして其二名は手術室の首婦となり一名は施藥局に一名は夜中看護の監督たり他一名は料理科の教師たり其外四八人の看護婦は助手として各部に分れて其業を分擔せり昨年第一回の卒業生は十七人にして中八名は首婦として常病院に留まり三名は他に病院の態度を以て勤務に他の三名は私傭の業に從事し殘り三名は自家に居れり。

●飲酒の刑罰　六月十三日下院に於てバーフの警察及び健康と題し四二四條に於て論じたる問題は飲酒及無能によりて起りたる犯罪に對して其罰を重大ならしめんとなり即ち四十シルリンの金を課するか然らざれば六十日以内の華麗を撰擇することを能ざるにありハンター曰く此れ最も背理の事にして曾て立法中に見ざる所なり飲酒の犯罪に對して六十日の罰を課するは怖しき罰と云ざるを得ず六十日を除きて六日となさんと政府員は曰く飲酒の犯罪は城市に於て大に巡査に困難を興るものなれどもグラスゴー大學議員の修整に同意を表し六十日を換て三十日とせんとハンター又曰く若し三十日の修整を尙改めて十日となさんには諸說紛々の迂遠を議員に受けしむるなけんバックレーも又十日を以て足れりとすダクタークラーク曰く之れ增罰なり政府員は曰く三十日は最高度の罰にして最高の罰は非常なる場合にあらざれば決して之を實施するものにあらず若し人誰か飲酒によりて不慮の事を爲したると慥にして年中巡査を煩はすと四度の多に至れば審判官は之を裁制に照して入牢せしむるを得べし然とも三十日は過分の法と云ざるを得ずハンター曰く尙細密に之を調べ實施するに適當なる且つ最も道理に合ひたる調和の修整を撰はんとバアルフォールは議長に訴て曰く果して政府が改正したる改正に併變革を加へ互に爭を起し下院を恐怖せしむるは順序なりや且つ議員は其恐怖に相應投したるや此の如き改正を受入んとして空しく時日を費すは必要とする所なりや議長答らく當時に於ては唯一の恐怖に過ぎざるも之を實施するに至りては種々の事情の起るや必せりと終に六十日の改正は打消されハニターの六日說も拒まればアルフォーアの十四日說採用せらるゝに至れり。

●チヤレスデルクの候補者たるの可否は撰擧者の定むべき任なりと認たるグラトストンに當て英國婦人卒先者より其反對說を主張し數周前に之を氏に報じたるは明白の事なり而してクリスト教主義を社會に實行せんとするものゝ中殊に改進の首稱たるヘンレリ、ソマルセットの如きは性急に之を撰擧者に建言するに至れり然とも其もとたる實に瑣細の事たりしなりクラクフォルド其妻より聖經の教理に從ひ離緣狀を保證したるにチヤルスデルクは其妻の同謀者たりしの故を以て心ある人は之を傍觀しデルクをして再び國會に入場せしむるに忍ざるのみならずミスエスクラウノオルド終身輕蔑を免かれず終に社會より放棄せらるゝに至れり。

●ビヽセクション（生躰解剖）に付きサリスビユレー公に白したる願書　五月三十一日プロチエスターテレスにて開かれたる婦人會はピアセルスミス夫人を議長とし左の嘆願書を首相を初め二法教師及びグラドストン公に提出せん事を議定したり其目的とする所は教會會合の開かれし時今年を第一回として左の議案の提出されん事を望みてなり、

當時國內一般に行はれ每年國費を增し公に准許したる生物學攻究論に少しく高位貴顯の注意を垂れ給わん事これ嘆願書の請求して止まざる所なり愼んで左に其理由を述べて警報とせん、

一、ビヽセクションの思想の行わるゝ地方は何れを問ず入院患者待遇上大に不幸を來し歐州に於てはベルリンの如き最も甚しくフランスの或病院にても之れが爲め明白に禮義を欠け男女患者の德性を大に殘害するに至れり、

二、十二年前曾テゴールチル博士の言に曰く此の思想は必らずセルマンの德風を廢弛するに至らんと果して其言の如く日耳曼は大に其帝國の威儀を剝き放埒なる當時の有樣を存するに至れり、

三、既に此國にてもビヽセクションを公許したるより增加したる損害は其例多し

四、或國手によりて使用せらるゝ病人の治療を計らんよりは寧ろ學生を教え探究を旨とした病院に於ける結果の如何は明白なる事にして自然創立者に不滿と疑惑を起し仁心ある義捐者を大に失望する所あらしめ及ぼして貧窮にして只病院の治療輔助の如何にのみ關するものゝ如きに至りては之が爲に受くる所の損害甚しかるべし、

五、每年國會に提出さるゝビヽセクシヨの官報は不正なるを以て誤る所あるは同題にて英國學藝新聞上に報する所と比格せば十分證明し得べきなり終に英國にては千八百九十一年衞生議會にては如何に研究の爲めと雖猥りに制限なく生物を穿鑿するなく幾分の禁止を置かん事を訴訟するに至れり、

六、過る半世記中動物を虐待より保護せん爲めに發布されたる保安法は國民を文明に導き罪過を減少したるも現今官許を得たる動植物學者の爲め破らるゝ如く見ゆるなり、

七、保安法の事は次第に擴まりて遂に生物學教科書中にも教ゆるに至りたれば今生物を困め試驗するとを以て官許する處となれは自然立法者仁心の信用を失ひ引て國民法律を從奉すべきの義務心をも大に動かさるゝに至らん、

以上論ずる所に限らずたとひ學術の爲或は如何なる名義を附するにも關らず一切國民の風儀を破り罪過暴虐を胚胎すべき事業には深く高位貴顯の注意あらんとを

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

切望す我等何も租税を英國に收むるもの國風道德を矯制せん爲め切に願ふ所は高顯の勢力を以て生物學考究の爲め官設を全くやめビヽセクレヨンの實行は全く禁止されんとを望みて止まざるなり

魯西亞の小說家且つ改革者たるトルストイ伯爵は病危篤なるよし。

暴虐者を罰せん爲建言す　パトリツクオブリン氏は淫媒者に關したる法律を改正せんとを下院に建言せり是に依れば若し婦人にして既に淫媒されたるもの或は淫媒せられんとしたるものは各自の名を以て或は二十才未滿のものは代理者を以て之を訴訟し得るとを之れなり且つ淫媒の爲受けたる損耗の證跡ある時は淫媒者より之が返償を得るとなり然ども原告者たる婦人に於ても其行狀に付き取調を受け被告者を連累するの證據として堅固緊要細密なる證明を要するなり訴訟を爲すべき年限は淫媒を受けし日より二ヶ年以内にして萬一原者二十才未滿なれば二十一才に達してより二ヶ年以内にあるべきなり

統計學者は日本に於ける車幷に其計算を報告せり、

乘合馬車の數	二八一七	計算七七七四九二圓
荷物運般の爲の通行人數	二五六三五	計算二〇五〇八〇圓
人力車數	一八一六六四	計算二九〇六六二四圓
二輪車數	七一四五八〇	計算二八五八三二〇圓
牛車の數	一〇〇三八	計算四〇三五二〇圓
車の總數	九三四七八四	總計算七一五一〇三六圓

統計表の示す所によれば乘合馬車は二七六圓の大額を收入す今四五十圓を費さば最良なる運送車を制造し可ければ之を東京郭外其他の重なる街道に設置せば利益する所多からん、人力車は平均十六圓の收入を得るなり。

●米國婦人基督教禁酒會の年會は八月二十八日より十一月二日までデンバアーに於て開かるべしと。

●ハワイの女王は近頃ホノルヽに於ける婦人基督教禁酒會に加勢し彼等の事業を許可する所ありたり且つ女王は自か禁酒せらるのみならで其饗應の席にも之を用ひず兼て好まれし舞踏の如きも之を避けらるヽに至れりと云ふ。

婦人の會合　當時シカゴに集合せる婦人委員等の協議の上可決したる事は來冬ワシントン府にて婦人集合を開かん事なり諸所より婦人代表者を聘するは勿論社會に於ける多くの諸會長を招き國民の教育保安家產離婚等に關したるとを初として其他多くの社會問題に付き研究し何れか最も當を得たる策なるかを論じ互の利益を增すのみならず社會の輿論を起し婦人權勢を發表せんとするにあり當會は只に一時の問題に付し去ることなく廣く各州の市區政の上に執行され人民に利益を與へんとを計るものなり若し婦人にして自己の權力と整頓せる思慮を發表し互に一致共力し國政に與かる人々と共に內外相應援せば數年を出ざる中に國勢を一變し政府の面目を一變し得るとや必せり婦人の政治上に於ける關係は間接なりと雖其及す所の勢力は決して少々にあらざるなり。

●ビスマーク伯爵とマールガリーチデーホヨー伯爵夫人との結婚式はギロシアザアセーロエヤナにて擧行され伯爵夫人は白色禮服伯爵は空色の禮服を着せられたりパルヘエーの御所にて饗應され會食するもの百二十人以上なりき魯西亞の使者スコーパロフはビスマーク伯爵の健康を陳述せり。

●割烹法習練學校を營れるチヤレスクラーク夫人は最も秀逸なる調理法を發明し暫時の間隔水曜日の午後之を說明せらる僅ハーフギニーを拂て得る利益は他の割烹法に付き有名なるセントゼームス宮殿の割烹長を初めとしロンドンに於けるサボイホテル長其他改革俱樂部の名高き職員等より得るよりは遙に其得多し割烹法は現に觀者の眼前になされ便利に設置されたる學校の割烹場は少も流通に患なく料理は凡て瓦斯を用ひ火勢上少しの不便をも感ずる事なし食物の調理法宜しきを得るときは最快好の風味を食物に與ふるものなれば之を食する人又願くは其發明者の苦心をも併て察知し益之が奬勵あらんとを望む。

●米國婦人によりて成功されたる有名なる一事件　ダクタルアミージブラオン孃は先年サンフランシスコのハニマン校を卒業したる人にして高才剛毅性人の交り易き方なり職を取る事僅かにして自ら殊得の性は外科術に適應するを悟り之を專修せんとを思立ち愈高尙の學を究めんとを欲し意を決して今より一年半前歐州に渡る然るに歐洲にては米國の學歷證書を以て特權を外人に許すを嫌忌し男子と雖學歷之が爲め大に困難を感じ擯折せらるゝ事多ければまして女子にありては渴望を滿さんと甚難し之れ現にビエナベルリンにて見る所なり故にブラウン孃も多少の困難を嘗めたれどもジユリツク大學に入るを得ずビエナにては普通生として女子の入學を許さゝりしも有名なる一外科醫の教訓の許に終に其望を裏容せられたり該醫は兼て孃がベルリンに至るも益する所少なかるべきとを告げしに果せる哉只多くの困難と失望を以て圍まれ孃の同僚たりし一婦人の如きは失望の爲め此所を去りしにも關らず稟性剛毅の孃（曾て本國に在りし時獅子は最も多病なるものなりとて或時其洞窟にさえ至りしと云ふ）は益其希望を遂げんとを決心せり然れども醫士の有權者は日耳曼にては外國の學生を病床に入るゝを好まざるとを云ひ女醫の如きにありては其所望最も遂げ難きを說諭せりされど孃は希望を逃て動ず訴ふるを切なりしかば醫士は終に動す可らざるを知り其所望を暫時許可せんとを告たり翌朝孃は博士學生等の集合せる病室に至りし時醫は學生の進步せるとを解き同進するとの難きを諭せども孃は是非受驗せんとを主張しければ詮方なく試驗を爲したり多くの學生は輕蔑ん奇異の思を以て注目したりしが悉く成功を告げしかば先に輕蔑冷嘲したるものは恭敬を以て祝意を述前非を悔ゆるに至り外科術を修學する爲めに受けし多くの困難に代ゆるに桂冠を以するに至れり院內は素より其名聲遠く聞えて謁見をさゐ乞ふもの多きに至れり之れベルリン大學に醫術を修學するものゝ婦人にしては獨り此孃あるのみ而して外科醫にして軍務上外出するとある時は其不在中孃は卒先の輔佐として其業を擔任せしめらる之れ古來未曾有のとにして婦人の名譽を高むる少なしとせず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌社出版書目錄

書名	著述	冊數	正價	郵税
文法口授	鈴木弘恭大人述	全	金拾二錢	金二錢
邦文學	松山高吉君著	全	金二拾錢	無郵税
雅俗諸體作文口授	鈴木弘恭大人述	全	金二拾五錢	金四錢
徒然草講義	同講述	一	金八錢	金二錢
參考標注徒然草拔萃	同標注著述	全	金貳十錢	金四錢
參考標注竹取物語讀本	同著述	全	金貳拾錢	金四錢
參考標注土佐日記讀本	同著	全	金二十錢	金四錢
女學校用讀本國文抄讀	池袋清風大人著	五冊	一冊 金二拾二錢宛	一冊 郵税金四錢宛
淺瀬の波	松田敏足君著述	二冊	金三拾錢	金四錢
明治女小學躾草	香月恕經君著	上下	金四拾錢	金六錢
記事祝文女子文例	本村熊二君著	全	金二拾二錢	金四錢
漢文抄讀	横山雅男君著	四冊	一冊 金二拾四錢宛	一冊 郵税金四錢宛
婚姻論	船越鼎太郎君著	全	金十六錢	金四錢
産婦小兒攝生法		全	金十錢	金二錢
母のつとめ	三島通良君著	母の巻・子の巻	金七十錢	金六十錢
兒育草	女學雜誌社編輯	全	金二拾錢	無郵税
女子生理	同編輯	全	金二十五錢	無郵税
子供のはなし	同編輯	全	金五錢	金二錢
家政要旨	村木經策君述	全	金五錢	金二錢
家計簿記法	藤尾錄郎君著	全	金二十錢	金四錢
束髪案内	渡邊鼎君著	全	金五錢	金二錢
女學叢書木村鐙子傳	巖本善治君著	全	金八錢	金二錢
貧兒の教育	安東松治郎君著	全	金六錢	金二錢
訓蒙繪双紙猫と鼠	井上藤平君編 久野正香君著	全	金五錢	金二錢
看護婦美談	巖本善治君著	全	金貳拾五錢	金六錢
吾黨の女子教育	坪谷善四郎君著	全	金拾錢	無郵税
日本女禮式	小野鐵之助君編	全	金五十錢	金十二錢
かな習字帖	同編	三冊	一冊 金拾二錢宛	一冊 郵税金二錢宛
文かきぶり	同編	二冊	金三十六錢	金六錢

正札引なし

新形 流行

○はをり紐 品々
○帯留類 品々
○時計紐 品々
○メリヤス 品々

右ノ外組糸一切御好ニ應ジ特製
仕○御進物等ハ美麗ニ調進仕候

組糸老舗 日本橋區よし町 佐竹勝兵衛

○御用ノ節ハ御報知次第參館仕候

日本第一等

おしろいいらず化粧用

小瓶 十錢
大瓶 廿錢

白妙は華化粧の料としてつやある美しき白色をあらわし白粉をぬり附たるがごとき厭味少しもなし

白妙は化粧下に用ゐて白粉の附き方むらにならず又あせをかきてもはげることなし

白妙を用ゆればいかにあれ性の人にてもあれることなくにきび○あせも○はたけ○すりむき○ひゞ○あかぎれ○しもやけなど直ちに治すべし

白妙は人体のはだをやわらかにしてつやをよくし顔にふんびなるはだ合となし色黒き人もしぜんに色白の美人となるべし

白妙は少しの水にてとかし又は其まゝにて用ゆるもよし

白妙はもちまへの香氣によりてもろもろの不淨を清むべし

白妙は醫藥衛生の諸學理とあきらかなるためしさにもとづきワゼリン○リスリン○ラノリン○白色顔料其他いろいろのよき藥を以て製造したる雅化の化粧料なれば従來世間にありふれたる化粧下や水白粉れり白粉とは大にちがいあり

白妙は人体に無害有効なるは勿論化粧下に用ひて日本白粉のをそろ可きどくをふせぎ前記の實効を有する事は近來がいこくの醫士學士等が上つけんせつさ又わがたびたびためしさによりてしかとみとむる所なりこふおためしの上御ひようばんをたまへ

○元祖色白くなる三能しやぼん 一個 十錢
○あれ性の御方冬は御必用玉子ぬか 一個 一錢五厘
○毛のはへる香油美人かづら 一瓶 金拾錢金廿錢

發賣元 東京市銀座一丁目 能ふきん本舗 佐々木玄兵衛

●妙蟲水

●田虫水虫には頗奇効あり

小瓶金八錢
中瓶金廿錢

●歯磨喜久福老

●はのためによき藥はみがき

小袋金壹錢
小箱金二錢

●諸家妙藥類並ニ舶來和製シャボン化粧品類モ販賣仕候

本舗 長尾民之助

外神田松富町五番地
舊御成道横町
寶丹支店守分堂

皇后陛下 明宮殿下 御覧済の書

再版

（リットルロードフォントルロイ）

小公子

巖本善治妻譯

小供のよみ本

譯者の序に曰く。「母と共に野外に逍遥する幼兒が、幹のくねり、尋常ならぬ一本の立木に指ざして、かあさん、あの木は小さい時誰かに踏れたのですネイ、と申たとか。考えて見ますと、美事に發育すべきものを遮ぎり、素直に生ひ立つ筈の者をくねらせる程、無情なとは實に稀で御座り升。邪道に陷らふとする父の足をとゞめ、卑陋に流れ行く母の心に高潔の德を思ひ起させるは、神聖なる天職を擔ふ可愛い幼兒に限ります。私は深く幼子を愛し其恩を思ふ者故此珍重すべきまろうどを尚一層優待したいと切に願ふ者です」と。斯る主意にて譯成る。原著は近頃英米に轟き渡り、子供の讀物として愛々しきと潔き事の類ひ無きは更にも言ず、白髪の老者も心頑なの人も、之を讀る間は天使に接する如しとて、推賞大方ならず、改版十數回、且尚ほ劇に演じて非常の喝采を博しぬ。譯者は斯る原文の味を損せじとて辛苦せられ、紙數二百八十頁密畫十四箇入の大本として今日世に進め玉へり。

一冊正價三十八錢〇郵稅八錢也

（批評）〇十一月十五日讀賣新聞〇經濟雜誌五百九十八號〇巖谷季雄君〇十一月十三日報知新聞〇十一月十七日中央新聞〇早稻田文學四號〇國民の友百卅八號〇十一月廿六日國民新聞〇十一月十七日中正日報〇亞細亞廿二號〇護教廿二號〇下田歌子君〇中島俊子君〇石橋忍月君〇一月十六日自由新聞

女學雜誌社

理學士　星野慶之輔君著

採集法

昆蟲　植物　金石

目録

昆蟲分類　昆蟲變態　採集地　採集注意　採集器　貯蟲器　刺針法　昆蟲運搬法　幼蟲類飼養法　葉とは何

花とは何　枝とは何　植物　及樹木種名　採集すへき部分　採集季節　採集器具　乾臘法　標本製法　金石分類名稱

金石の現出　識別鑑定法　岩石分類名稱　土性分析法　採集器具　採集方法　地質觀測法及ひ器具

小形洋綴美本　正價金八錢　郵稅金二錢

夏期休業將に半ばならんとす、學生諸君故山の緑陰に逍遙するものこの一本を携へ給へ

發賣元　女學雜誌社

早稻田文學第九號

七月三十日發兌　代價一冊九錢　郵稅貳錢

莊子、論理學は益々要點に進み、八犬傳諸評答集は弱々趣味を增し、丹波與作は本號にて完結し、マクベスはダンカン王弑殺の埒にして空中に鮮血淋漓たる短刀を現ずる凄絕慘絕の所也。無韻非歌論は旗野氏の筆に成り前人の未だ言はざる所、三國志評は森槐南氏獨得の文字、三國志は大家の名を借せる僞作なりと明確せる所氏の創見にして快甚し、時文評論には●戲曲家と優人とを論じて劇評論に及ぶ●新聞紙●方今の新狂言●山田氏の日本大辭書●河竹默阿彌翁●名著の筋書に就いて●讀者諸子の注文に答ふ●近刊雜誌●新刊書

發行所　東京專門學校

發賣所　神田一ツ橋通有斐閣

城南評論

第六號　八月廿一日發兌　每月一回　一冊定價六錢　六冊前金卅三錢　府外郵稅一冊五厘

國學の將來と國文學者
カント氏經驗論
蔣藏園の序事諸作
淨瑠璃史稿（京都）
四紋秋附評釋
松葉散き
吹毛劍
舊都の春月
新刊文書
不知庵主人の文學一斑を讀むで文學の範圍及び定義を疑む、女學雜誌の裝美魔、同じ雜誌の樂論、早稻田文學か谷の新劇家、梨園のおちば、美妙を惜む、非厭世を嘲る、

新井虎南
得能文
寧齋主人
星川
森槐南
坪内逍遙
臥雲大夢
すべか文房主人
鬼門關尹
くちわる男

雜録

地方文學其一（芝廼園）、森鷗外君と三田大學、文壇の新問題、未來の著述、日本大辭書に就て、柳浪子と水蔭子、

發行所　芝區神明町二十五番地　城南評論社

嚴本善治編

吾黨之女子教育

全部十五章

明治女學校に告ぐ……一
目下の女子教育法……一
何をか中正の旨義と云ふ……三十
女子教育に關する幾多の謬見……三十
女學及女子教育……五十四
母妻論……六十四
女學に反對する者の言論……八十四
日本女學讀本編纂……九十二
女誡と躰操……百

上　躰操……百
下　女禮……百五
女學校の裁縫科……百十二
塾舍に三の法あり……百二十二
武道の辨……百二十七
老母に代つて女學生へ苦情……百五十
細君戸助の辨……百五十九
當今女子教育者の胸臆……百九十七
女學普及の經綸……二百〇七

小形二百十七ページ
定價郵稅共金拾錢

明治女學校出版

女學雜誌社發賣

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

早稲田文學第廿壹號　八月十五日發兌

莊子万葉の釋義益々步を進め俳諧論彌々完璧に近つきマクベスは「スリープ、ノー、モーア」の一段、譯文評言並に活動、新載の名著梗概には桃花扇を掲げて方寸鏡裡に宮殿玉樓を現じ無韻非歌論は書を記紀万葉古今俗謠に取りて詳密、時文評論なる學海櫻痴の對照また是前人の評及せざる所其他●伊澤氏の音樂談●角を矯さんとして牛を殺す勿れ●不平界●『日本』の文學趣味●東京專門學校●原坦山師等何れも多趣有益なり●全篇の頁數また例の如く多し

代價郵税共一冊金拾一錢六冊全前金六拾三錢

發行所　東京專門學校

發賣所　神田一ツ橋通　有斐閣

普連土女學校生徒募集

本校ハ來ル九月十二日ヨリ次學期ノ業ヲ始ム

本校ハ從來設置ノ豫科ニ入學シ能ハザル者ノ爲メニ假リニ科外一年ヲ設ケテ入學ヲ許ス

本校ノ授業料ハ當分左ノ如ク改正ス

科外一年ヨリ豫科二年ニ至ル　金七拾錢

豫科三年ヨリ本科三年ニ至ル　金壹圓

本校ハ今回女子日常普通學科ノ教授時間ヲ增加ス

本校ハ各學部ニ熟練ナル內外教師若干名ヲ聘シテ懇切ニ教授ス

本校ハ高燥ニシテ眺望ニ富ミタル寄宿室ヲ設ケアリ

入學ヲ望ム者ハ郵券貳錢ヲ送ラバ規則ヲ呈ス

東京市芝區三田功運町三十番地　私立普連土女學校

來る九月十二日開校高等普通豫備の三科共試驗の上入學を許す志願者は前以て申込べし規則書入用の者は郵券二錢を要す

神戸山本通四丁目　神戸英和女學校

教育ハ社會ノ改進ト倶ニ進歩セザル可ラズ本校設立以來茲ニ十七年其間幾多ノ改良ヲ施シ以テ父兄諸君ノ信用ヲ空ウセズ來學ノ令孃實ニ數十百人ノ多キニ及ベリ本年ノ如キ高等科一名本科十二名豫科七名ノ卒業生ヲ得タリ今般內外ノ教科書授業法ヲ始トシ其他校則等大ニ改良ヲ施シ專ラ勉強ト親切トヲ以テ益々女子教育ニ從事セント欲ス世ノ令孃幸ニ來リ學ベ●入學試驗九月五六日○學年始九月七日

規則書入用ノ諸君ハ御通知次第直ニ呈送ス可シ

横濱山手百七十八番　フェリス和英女學校

●女學生募集

本會ハ會員少女撰修手藝ノ四科中ニテ普通高等女學志願者ハ勿論既婚既學ニテ充分修學ノ暇ナキ婦女ヘモ適宜ノ學藝ヲ授ケ賢才良母ノ養成ヲ期ス●外國人三名內國人十名ノ專門教員各科ヲ擔任ス●豫備前期新募ス以上高等科遂缺員アリ●志願者ハ九月八日迄ニ申込ベシ

大阪道修町[illegible]　大阪婦人學習會

本校ハ校舎完備土地高燥市街ノ雜沓ヲ避ケ眞ニ教育ノ良地也本校ハ學科ノ程度ヲ低クシ之ヲ授クルニ老成ノ教師ヲ以テシ務メテ應用ノ力ヲ養ハシム本校ハ次學年ヲ九月十一日ニ始メ各科共入學ヲ許ス志願者ハ八月中ニ願書ヲ出スベシ規則書ハ貳錢ヲ要ス

大阪東成郡清堀村

私立 浪華女學校

廣求

女禮の教授を兼ね且つ女學校の取締たるべき**婦人**一名並に代數幾何の教授に十分堪ゆる數學力ある**男教師**一名**至急懇聘**したし右廣く求む。右双方とも熱信の基督教徒たるを要し九州地方の某所に勤むべき者とす。給料は前は十圓乃至十五圓、后なるは十二圓以上二十圓とす。右望みの諸君は履歴、現今の地位、一生の志望、愛洗年月、所屬教會、及び其親友知己數名の名を記し可成く早く、左の名宛にて郵便書送ありたし。

東京下六番町六番地女學雜誌社　巖本善治

入學志願者ハ齢廿二年已上普通教育アリ身躰健全品行方正ナル婦女ニシテ九月十日迄ニ申込アレ但在學ハ二年間學資ハ食費而已ニシテ授業料ヲ要セズ規則書入用ノ方ハ貳錢切手ヲ送付アレ

京都烏丸上長者町

京都看病婦學校

前號(白表)**及び前々號**(赤表)**に東京英和女學校學生募集廣告あり、見るべし**

鈴木弘恭大人講述

第四版

百人一首講義

附錄小倉てびき

正價金廿八錢　郵税四錢

御高評を得たる百人一首注文いよ〳〵多く第三版品切に成りたれば茲に第四版を印行し、且つ「小倉てびき」と云ふ、極めて便利の見出を添ゆ、之によりて百人一首それ〳〵の歌の句の在り處、意味、よみ手などを直ちに見出すことを得る至極重寶なり。

發兌元　東京麹町區下六番町六番地　**女學雜誌社**

女學雜誌大取次所

- 東京市本町三丁目　瑞穂屋卯三郎
- 同錦町二丁目　武藏屋藤藏
- 同尾張町二丁目　東海堂
- 同新右衛門町　良々堂
- 同表神保町　東京堂
- 同出雲町　警醒社
- 同鐵砲町　指金堂
- 同元富士町　盛春堂
- 同雉子町　團々社
- 福岡縣福岡　積善館支店
- 神奈川縣横濱市　共同新聞發賣會社
- 同同　万字堂
- 京都佛光寺烏丸　東枝律書店
- 同新町竹屋町　便利堂
- 大坂本町四丁目　岡島支店
- 同　福音社
- 神戸元町四丁目　福音社
- 函館市　福音社
- 熊本縣熊本　草野門平
- 京都新町二條　大黒屋書店

女學雜誌市内賣捌店

- 麹町區上六番町　日盛堂
- 同三番町　梅仙舍
- 同同　福音堂
- 同飯田町　三文字屋
- 同同　洗心堂
- 神田區神保町　松江堂
- 同同　青柳堂
- 同雉子町　大塚書籍店
- 牛込區神樂町　積善堂
- 同同　正導舍
- 同肴町　深田綱兵衛
- 本郷區弓町　文字堂
- 同同　就本堂
- 同富士前町　解明堂
- 同同　臨春堂
- 同二丁目　古河屋
- 下谷區東黒門町　三一堂
- 神田區松岡町　山口次郎
- 同旅籠町一丁目　槇本
- 同鍋町　清水嘉兵衛
- 日本橋區本町三丁目　庭花堂
- 芝區櫻田本郷町　鈴木新兵衛
- 同南佐久間町　栗原
- 同同　鈴木
- 赤坂區新町　赤川市兵衛
- 同同　飯田
- 京橋區尾張町　鈴々木
- 同出雲町　金盛堂
- 同　山田屋
- 本郷區天神町　改進堂
- 神田區小川町　大塚雜誌店
- 同錦町二丁目　眞故堂

其他書籍繪双紙店に於而賣捌く

來る二十日發兌す

女學生夏期號外

其題目下の如し

一休和尚……天知子
一休は乾質矯激家なり
一休は厭世的宗教家に非ず
一休は宗教界の俠客か
一休は懐疑哲學家なり
一休は人世の半可通なり

故人……無名氏
むかし半掃庵は奈良茶の煙に故人の魂を招き、これは故人を尋ねて母戀しの聲を聞く、

英雄……山月子
彼は常に最も美なり
彼は變化無極の活文章なり
彼は誠涙活火の人なり
彼は天然を愛する詩人なり
彼は基督の良僕なり

孤飛蝶……脫蟬子
花に飛ぶ蝶、宙宇に舞ふ蝶、此女を併せ見ば、味亦深し

怪しき木像……暗光子
愛眼もて荒法師を觀じ無聲もて千載古豪を呼ぶ

望夫石……夕軒子
夏の夕べの漫歩きに往きぬる春の物語、昔にしみいる乙女の微笑か濱の月魂

鎌倉紀行……紫瓊山人
遊意所向既に人に異る、わび住居に郷を思ひ友を憶ふ

松風夢……禿木子
村荘門に客なく、幽窓松籟を聽く處、雜感湧出、寫して此篇に在り

號外一冊六錢●女學生購讀者には四錢にて配布す●郵稅一冊五厘●

女學雜誌社女學部

女學雜誌第三百二十號より改正仕り同號より白赤の二種に別ちたれば五月限り帳簿上も**雜誌代金**至急御拂込相成度候。亦改正致度候間舊號迄の爲替は**麴町郵便局**へ御振込被成下度候

女學雜誌社發送部

一新誌及び書籍代金二十錢未滿は郵劵代用不苦候、郵劵は五厘切手一割增の事

一雜誌及ひ書籍代金通運便にて御送付の向は屆け賃とも濟にして御送付相成度候

女學雜誌代價

○白赤双方合せ講讀の分

十冊	前金 五十八錢	府外 六拾三錢
廿六冊（半年）	同 一圓四十三錢	同 一圓五十六錢
五十二冊（一年）	同 二圓六十錢	同 二圓八十六錢

○白赤の内一方講讀の分

六冊	前金 三拾五錢	府外 三十八錢
十三冊（半年）	同 七拾三錢	同 七十八錢
廿六冊（一年）	同 一圓三十錢	同 一圓四十三錢
一冊 金六錢	郵稅 金五厘	

廣告料及無料廣告

一行（廿七字詰）	一回	前金	拾錢
同	三回以上	一	割引
同	六回以上	二	割引

○十行以上一割引。　二十行以上二割引。
○四十行同四割引。
但し不道德なる廣告は謝絕す、慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く
○特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲くるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部注文を要し以上半頁毎に十部增と定む。

發行所
東京市麴町區下六番町六番地
女學雜誌社
編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三